仙台市幼児教育の指針策定にかかる
アンケート調査の結果

平成２９年４月

仙台市子供未来局

仙台市幼児教育の指針策定にかかるアンケート調査の結果

１　調査の趣旨

仙台市幼児教育の指針を策定するにあたり、本市の幼児教育にかかる現状と課題を把握するために、日々子どもたちと向き合っている教育・保育施設の方々のご意見を収集する。

２　調査の概要

（１）調査対象

市内全ての幼稚園、保育所、認定こども園、計２５８園。

（内訳）

①幼稚園　　８４園（内訳：私立　８２園、公立　２園）
②保育所　　１６２園（内訳：私立１２２園、公立４０園）
③認定こども園　　１２園（内訳：私立　１２園、公立　０園）

（２）調査期間

平成２９年１月１７日～平成２９年２月１０日

（３）調査項目

「子ども（５歳児）の育ち」や「家庭や地域の子育て」について現状を調査するとともに、「幼児教育」に関する課題や今後特に力を入れて取り組むべきことについて調査。

３　回答状況

	対象数	回答数（※1、※2）	有効回答数（※3）	有効回答率
合計	258	245	244	94.6%

※1 平成２９年３月３日までに回答があったもの

※2 調査内容が５歳児の育ちに関するものであったため、３歳未満児のみ入所している保育所（３園）から回答を辞退する申し出あり。

※3 ５歳児がおらず、３、４歳児の様子で回答しましたとの申し出があった保育所（１園）について有効回答から除外した。

4　アンケート結果

（１）子どもの育ちについて

【調査内容】

◇幼稚園教育要領の改訂に関して、平成28年8月に公表された「幼児教育部会における審議の取りまとめ」において、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として10の項目が示された。

①健康な心と体　②自立心　③協同性
④道徳性・規範意識の芽生え　⑤社会生活との関わり　⑥思考力の芽生え
⑦自然との関わり・生命尊重　⑧数量・図形、文字等への関心・感覚
⑨言葉による伝え合い　⑩豊かな感性と表現

◇この10の項目を分類として、子どもの育ちに関して一般的に課題として挙げられていることで30の質問を作成し、本市の子どもたちの場合にはどの程度当てはまるのか、最も危惧されているのはどの項目か調査した。

【調査結果概要】

◇30の質問中14の質問で、「そう思う」又は「まあそう思う」の回答率が50％を超えた。（⇒P. 3参照）

◇幼児期の終わりまでに育って欲しい姿の項目で見ると、以下の４項目において、「そう思う」「まあそう思う」の回答が50％を超えるものが多かった。（⇒下表参照）

(1)健康な心と身体
(2)自立心
(4)道徳性・規範意識の芽生え
(9)言葉による伝え合い

◇今回の調査結果から、本市の子どもの育ちに関する課題として以下が挙げられる。

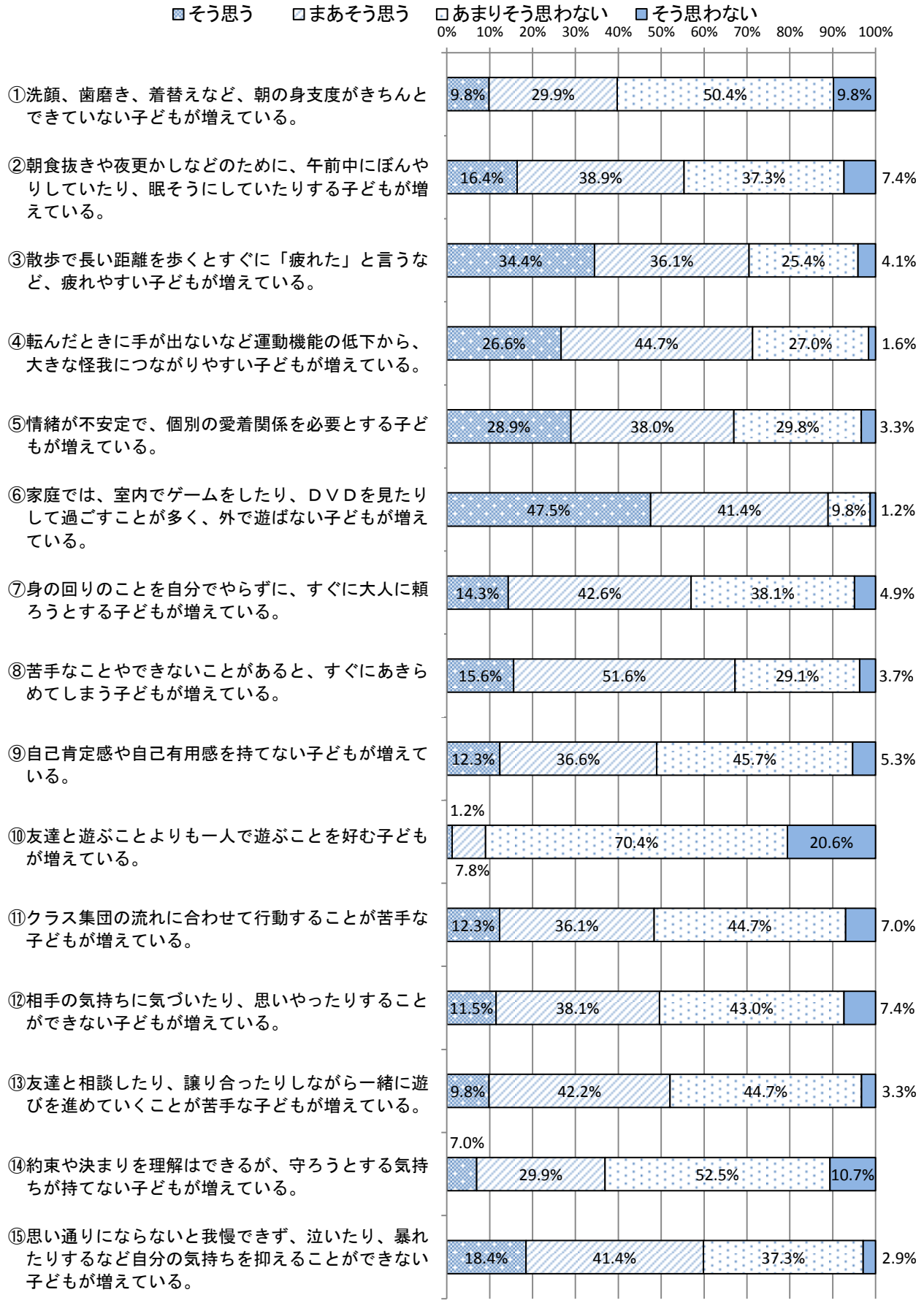
①外で遊ぶ機会が減り、子どもたちの体力、運動機能が低下している。
②基本的な生活習慣が身についておらず、生活のリズムが乱れがちな子どもが増えている。
③情緒が不安定で、落ち着きがない子どもが増えている。
④自分のことは自分で考え、自分でやろうとする力が低下している。
⑤困難な場面でも、くじけずにやり抜こうとする力が低下している。
⑥自分の思いどおりにならないときに我慢する力や自制心が十分に育っていない。
⑦コミュニケーションを苦手とする子どもが増えている。

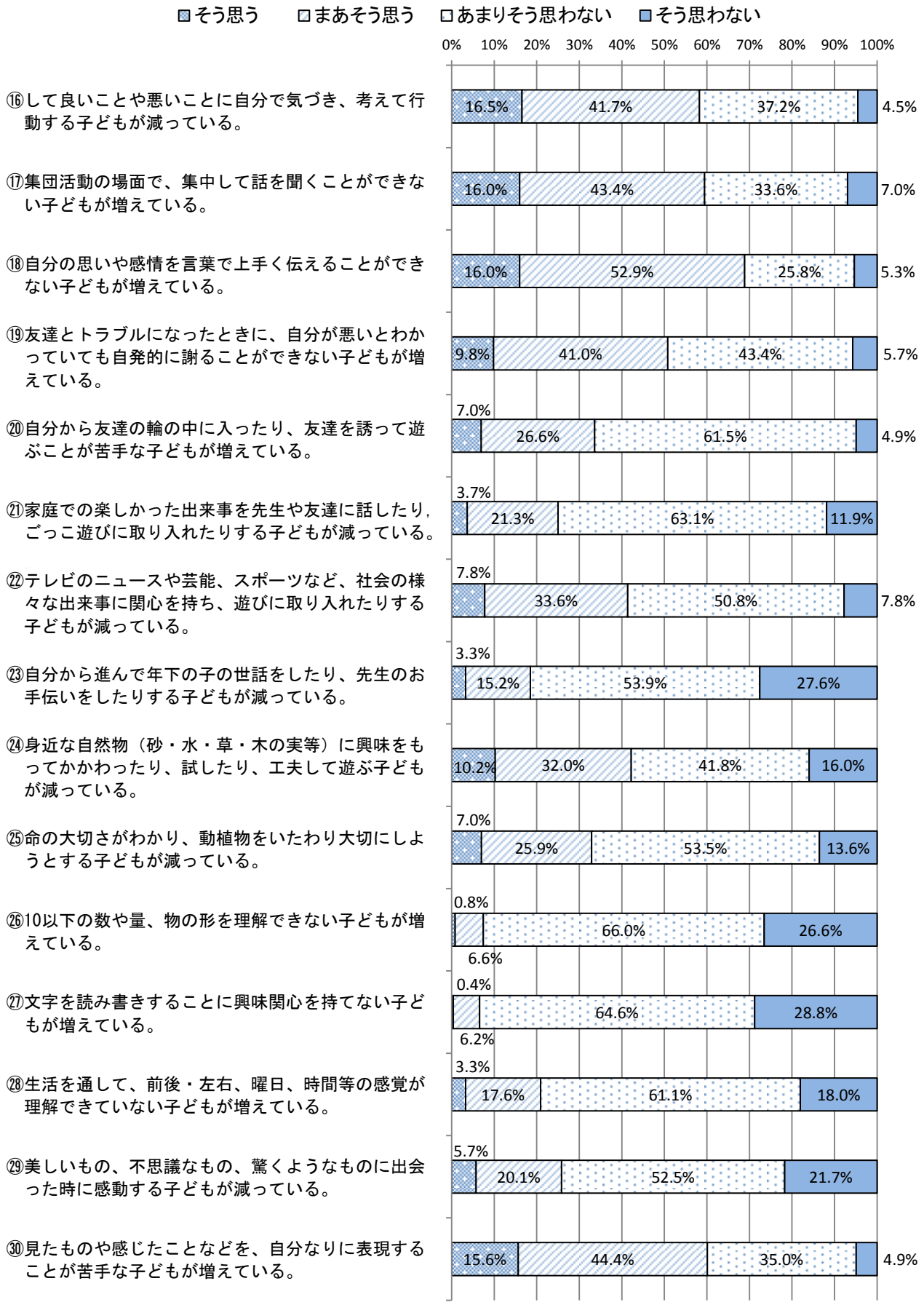
幼児期の終わりまでに育って欲しい姿	質問番号	質問数	「そう思う」「まあそう思う」が50％を超えた質問数
（１）健康な心と体	①②③④⑤⑥	6	5
（２）自立心	⑦⑧⑨	3	2
（３）協同性	⑩⑪⑫⑬	4	1
（４）道徳性・規範意識の芽生え	⑭⑮⑯	3	2
（５）社会生活との関わり	⑳㉑㉒㉓	4	0
（６）思考力の芽生え	㉔㉕	2	0
（７）自然との関わり・生命尊重			
（８）数量・図形、文字等への関心・感覚	㉖㉗㉘	3	0
（９）言葉による伝え合い	⑰⑱⑲	3	3
(10) 豊かな感性と表現	㉙㉚	2	1
		30	14

◇質問一覧（「そう思う」「まあそう思う」の回答率が高かった順）

	質問番号	質問文	そう思う	まあそう思う	計
1	⑥	家庭では、室内でゲームをしたり、ＤＶＤを見たりして過ごすことが多く、外で遊ばない子どもが増えている。	47.5%	41.4%	88.9%
2	④	転んだときに手が出ないなど運動機能の低下から、大きな怪我につながりやすい子どもが増えている。	26.6%	44.7%	71.3%
3	③	散歩で長い距離を歩くとすぐに「疲れた」と言うなど、疲れやすい子どもが増えている。	34.4%	36.1%	70.5%
4	⑱	自分の思いや感情を言葉で上手く伝えることができない子どもが増えている。	16.0%	52.9%	68.9%
5	⑧	苦手なことやできないことがあると、すぐにあきらめてしまう子どもが増えている。	15.6%	51.6%	67.2%
6	⑤	情緒が不安定で、個別の愛着関係を必要とする子どもが増えている。	28.9%	38.0%	66.9%
7	㉚	見たものや感じたことなどを、自分なりに表現することが苦手な子どもが増えている。	15.6%	44.4%	60.1%
8	⑮	思い通りにならないと我慢できず、泣いたり、暴れたりするなど自分の気持ちを抑えることができない子どもが増えている。	18.4%	41.4%	59.8%
9	⑰	集団活動の場面で、集中して話を聞くことができない子どもが増えている。	16.0%	43.4%	59.4%
10	⑯	して良いことや悪いことに自分で気づき、考えて行動する子どもが減っている。	16.5%	41.7%	58.3%
11	⑦	身の回りのことを自分でやらずに、すぐに大人に頼ろうとする子どもが増えている。	14.3%	42.6%	57.0%
12	②	朝食抜きや夜更かしなどのために、午前中にぼんやりしていたり、眠そうにしていたりする子どもが増えている。	16.4%	38.9%	55.3%
13	⑬	友達と相談したり、譲り合ったりしながら一緒に遊びを進めていくことが苦手な子どもが増えている。	9.8%	42.2%	52.0%
14	⑲	友達とトラブルになったときに、自分が悪いとわかっていても自発的に謝ることができない子どもが増えている。	9.8%	41.0%	50.8%
15	⑫	相手の気持ちに気づいたり、思いやったりすることができない子どもが増えている。	11.5%	38.1%	49.6%
16	⑨	自己肯定感や自己有用感を持てない子どもが増えている。	12.3%	36.6%	49.0%
17	⑪	クラス集団の流れに合わせて行動することが苦手な子どもが増えている。	12.3%	36.1%	48.4%
18	㉔	身近な自然物（砂・水・草・木の実等）に興味をもってかかわったり、試したり、工夫して遊ぶ子どもが減っている。	10.2%	32.0%	42.2%
19	㉒	テレビのニュースや芸能、スポーツなど、社会の様々な出来事に関心を持ち、遊びに取り入れたりする子どもが減っている。	7.8%	33.6%	41.4%
20	①	洗顔、歯磨き、着替えなど、朝の身支度がきちんとできていない子どもが増えている。	9.8%	29.9%	39.8%
21	⑭	約束や決まりを理解はできるが、守ろうとする気持ちが持てない子どもが増えている。	7.0%	29.9%	36.9%
22	⑳	自分から友達の輪の中に入ったり、友達を誘って遊ぶことが苦手な子どもが増えている。	7.0%	26.6%	33.6%
23	㉕	命の大切さがわかり、動植物をいたわり大切にしようとする子どもが減っている。	7.0%	25.9%	32.9%
24	㉙	美しいもの、不思議なもの、驚くようなものに出会った時に感動する子どもが減っている。	5.7%	20.1%	25.8%
25	㉑	家庭での楽しかった出来事を先生や友達に話したり，ごっこ遊びに取り入れたりする子どもが減っている。	3.7%	21.3%	25.0%
26	㉘	生活を通して、前後・左右、曜日、時間等の感覚が理解できていない子どもが増えている。	3.3%	17.6%	20.9%
27	㉓	自分から進んで年下の子の世話をしたり、先生のお手伝いをしたりする子どもが減っている。	3.3%	15.2%	18.5%
28	⑩	友達と遊ぶことよりも一人で遊ぶことを好む子どもが増えている。	1.2%	7.8%	9.1%
29	㉖	10以下の数や量、物の形を理解できない子どもが増えている。	0.8%	6.6%	7.5%
30	㉗	文字を読み書きすることに興味関心を持てない子どもが増えている。	0.4%	6.2%	6.6%

【調査結果】


そう思う
まあそう思う
あまりそう思わない
そう思わない
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
①洗顔、歯磨き、着替えなど、朝の身支度がきちんとできていない子どもが増えている。
9.8%
29.9%
50.4%
9.8%
②朝食抜きや夜更かしなどのために、午前中にぼんやりしていたり、眠そうにしていたりする子どもが増えている。
16.4%
38.9%
37.3%
7.4%
③散歩で長い距離を歩くとすぐに「疲れた」と言うなど、疲れやすい子どもが増えている。
34.4%
36.1%
25.4%
4.1%
④転んだときに手が出ないなど運動機能の低下から、大きな怪我につながりやすい子どもが増えている。
26.6%
44.7%
27.0%
1.6%
⑤情緒が不安定で、個別の愛着関係を必要とする子どもが増えている。
28.9%
38.0%
29.8%
3.3%
⑥家庭では、室内でゲームをしたり、ＤＶＤを見たりして過ごすことが多く、外で遊ばない子どもが増えている。
47.5%
41.4%
9.8%
1.2%
⑦身の回りのことを自分でやらずに、すぐに大人に頼ろうとする子どもが増えている。
14.3%
42.6%
38.1%
4.9%
⑧苦手なことやできないことがあると、すぐにあきらめてしまう子どもが増えている。
15.6%
51.6%
29.1%
3.7%
⑨自己肯定感や自己有用感を持てない子どもが増えている。
12.3%
36.6%
45.7%
5.3%
⑩友達と遊ぶことよりも一人で遊ぶことを好む子どもが増えている。
1.2%
70.4%
20.6%
7.8%
⑪クラス集団の流れに合わせて行動することが苦手な子どもが増えている。
12.3%
36.1%
44.7%
7.0%
⑫相手の気持ちに気づいたり、思いやったりすることができない子どもが増えている。
11.5%
38.1%
43.0%
7.4%
⑬友達と相談したり、譲り合ったりしながら一緒に遊びを進めていくことが苦手な子どもが増えている。
9.8%
42.2%
44.7%
3.3%
⑭約束や決まりを理解はできるが、守ろうとする気持ちが持てない子どもが増えている。
7.0%
29.9%
52.5%
10.7%
⑮思い通りにならないと我慢できず、泣いたり、暴れたりするなど自分の気持ちを抑えることができない子どもが増えている。
18.4%
41.4%
37.3%
2.9%


そう思う
まあそう思う
あまりそう思わない
そう思わない
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
⑯して良いことや悪いことに自分で気づき、考えて行動する子どもが減っている。
16.5%
41.7%
37.2%
4.5%
⑰集団活動の場面で、集中して話を聞くことができない子どもが増えている。
16.0%
43.4%
33.6%
7.0%
⑱自分の思いや感情を言葉で上手く伝えることができない子どもが増えている。
16.0%
52.9%
25.8%
5.3%
⑲友達とトラブルになったときに、自分が悪いとわかっていても自発的に謝ることができない子どもが増えている。
9.8%
41.0%
43.4%
5.7%
⑳自分から友達の輪の中に入ったり、友達を誘って遊ぶことが苦手な子どもが増えている。
7.0%
26.6%
61.5%
4.9%
㉑家庭での楽しかった出来事を先生や友達に話したり，ごっこ遊びに取り入れたりする子どもが減っている。
3.7%
21.3%
63.1%
11.9%
㉒テレビのニュースや芸能、スポーツなど、社会の様々な出来事に関心を持ち、遊びに取り入れたりする子どもが減っている。
7.8%
33.6%
50.8%
7.8%
㉓自分から進んで年下の子の世話をしたり、先生のお手伝いをしたりする子どもが減っている。
3.3%
15.2%
53.9%
27.6%
㉔身近な自然物（砂・水・草・木の実等）に興味をもってかかわったり、試したり、工夫して遊ぶ子どもが減っている。
10.2%
32.0%
41.8%
16.0%
㉕命の大切さがわかり、動植物をいたわり大切にしようとする子どもが減っている。
7.0%
25.9%
53.5%
13.6%
㉖10以下の数や量、物の形を理解できない子どもが増えている。
0.8%
66.0%
26.6%
㉗文字を読み書きすることに興味関心を持てない子どもが増えている。
6.6%
0.4%
64.6%
28.8%
㉘生活を通して、前後・左右、曜日、時間等の感覚が理解できていない子どもが増えている。
6.2%
3.3%
17.6%
61.1%
18.0%
㉙美しいもの、不思議なもの、驚くようなものに出会った時に感動する子どもが減っている。
5.7%
20.1%
52.5%
21.7%
㉚見たものや感じたことなどを、自分なりに表現することが苦手な子どもが増えている。
15.6%
44.4%
35.0%
4.9%

（２）家庭や地域の子育てについて

【調査内容】

◇家庭や地域の子育てに関して一般的に課題として挙げられていることで６つの質問を作成し、本市の場合にはどの程度当てはまるのか調査した。

【調査結果概要】

◇６つの質問全てで、「そう思う」又は「まあそう思う」の回答率が50％を超えた。（⇒【調査結果】参照）

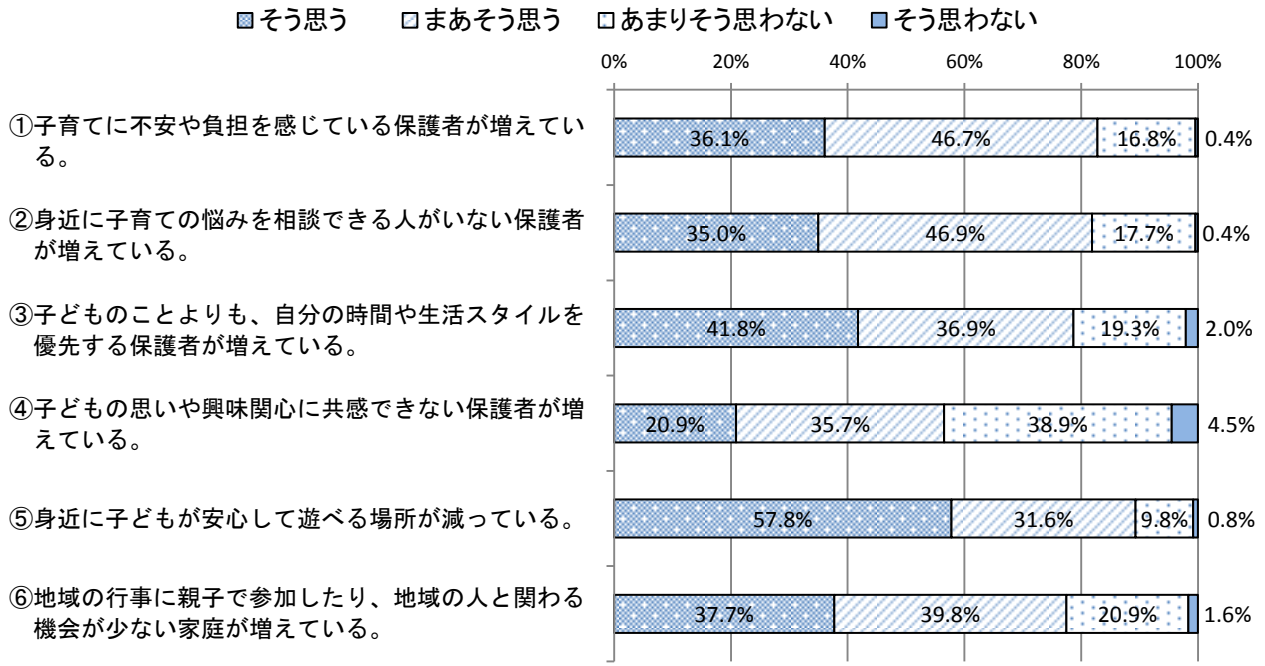
◇今回の調査結果から、家庭や地域の子育てに関する課題として以下が挙げられる。

①身近に悩みを相談できる人がいなく、子育てに不安や負担を感じている保護者が増えている。

②保護者の生活スタイルが優先され、子どもの生活リズムや生活習慣に大きな影響を与えている。

③身近な場所で遊んだり、地域の行事に参加して地域の方と関わったりする機会が少なくなり、子どもが地域の中で育つ機会が減っている。

【調査結果】



（３）幼児教育について

① 幼児教育について、現在の一番の課題は何だと思いますか。

② ①で挙げていただいた課題の解決に向けて、どんな取組が必要だと思いますか。

③ ②に記入していただいた取組のほかに、今後特に力を入れて取り組むべきと考えることがあれば、記入願います。

【調査結果概要①】

自由記述形式で回答していただいた「幼児教育の現在の一番の課題」の回答内容を分類・分析したところ、主な回答は以下に記載の「幼児教育について」「子どもの育ちについて」「子育て家庭について」の３分類、計12項目に集約された。

◇幼児教育について

①幼児教育への正しい理解とその重要性を社会全体で理解すること

・幼児期における教育のあるべき姿について正しく理解されていない。
・幼児教育の重要性について、保護者、教育者、保育者、社会全体で認識が共有されていない。
・知識の詰め込みや小学校の学習の先取りが幼児教育と考えられ、持てはやされる傾向がある。
・「できる」「できない」の評価で子どもをみる傾向がある。

②幼児教育・保育の質の向上

・人材の確保
・人材の育成、教育・保育者の資質の向上、意欲の向上
・労働環境の充実（働きやすい環境づくり、働き続けられる環境づくり、処遇改善）
・教育者、保育者自身の様々な経験が不足している。

③家庭との連携

・様々な家庭背景があり、価値観も多様化する中で、保護者の理解と協力を得ながら教育・保育を実践していく必要がある。
・保育所における教育への取組が保護者に十分に理解されていない。

④特別な配慮を必要とする子どもへの対応

・発達障害等特別な配慮を必要とする子どもが増えている。

⑤幼保小のさらなる連携

・小学校との連携が薄いため入学後の不安がある。
・子どもの発達や学びの連続性を確保し小学校との連携を図っていく必要がある。

◇子どもの育ちについて

⑥身体機能の低下

・身体を使って遊ぶ機会や場所が激減している。
・子どもの体力や運動機能が低下している。

⑦非認知的能力、社会情動的スキル、自己肯定感の向上

※以下の文言を用いて上記能力等の向上を挙げる回答が多かった。
生きる力、学びに向かう力、自分で考え行動する力、自主性、自立心、自発性、心の教育、思いやりの心、社会性、規範意識、意欲、粘り強さ、好奇心、探究心、コミュニケーション能力、協同性、善悪の判断力など

⑧基本的な生活習慣の確立

・生活リズムや食生活（朝食の欠食や肥満等）が乱れている。
・親の都合やライフスタイルが優先され、親の生活リズムに子どもが合わせられている。

⑨実体験（生活体験、自然体験、社会経験）の不足

・地域の中に安心して遊べる場所がなく、様々な遊びを体験する機会が少なくなっている。
・異年齢の子どもや同年齢の子どもと、群れて遊び込む経験が少なくなっている。
・自然と関わる経験が乏しい。
・日本独自の伝統文化の継承が廃れつつある。
・五感で様々なことを感じられる環境や経験できる場面を設定する機会が減ってきている。

⑩電子機器の長時間使用等の健康への影響

・ゲーム機器やスマートフォンなどの電子機器に触れる時間が長くなっており、心身の健康への影響が危惧される。

◇子育て家庭について

⑪親子の関わりの希薄化、大人との愛着形成が不十分

・長時間労働や長時間保育の利用により、親が子どもと接する時間が少なくなっている。
・子ども自身が、親に愛され見守られている実感が持てないでいる。
・自分が大切にされているという実感を人との関わりの中で持つことができにくくなっている。
・乳幼児期に大人とのしっかりとした愛着関係を育て、安定した情緒を土台に自己肯定感を育むことが必要。

⑫家庭の子育て力、教育力の低下

・身近に相談相手がいないため、子育てに不安や負担を感じている保護者が多い。
・情報過多の中で、情報に振り回されて不安を感じている保護者が多い。
・子育ての大変さばかりがクローズアップされ、子育ての楽しさを知らない、知ろうとしない保護者が増えている。
・子育てに対する意識が低い保護者が見受けられる。
・親が保育所や幼稚園に過度に依存し、本来は家庭で行うべきしつけや基本的な生活習慣が身についていない子ども増えている。
・保護者が疾患を持っている等養育力に不安がある子育て家庭への支援が必要。

【調査結果概要②③】

自由記述形式で回答していただいた「課題解決に向けた取組」「その他今後特に力を入れるべき取組」の主な回答は以下のとおり。

◇幼児教育について

課題	取組
①幼児教育への正しい理解とその重要性を社会全体で理解すること	・幼児教育のあるべき姿を整理、明文化し、現場で実践すること。また、保護者にも伝えること。 ・幼児教育が、早期教育ではなく幼児期にしかできない沢山の豊かな体験から学んでいくことが大切であることを、教育の現場から発信し続けること。 ・保護者に向けた幼児教育についての啓蒙活動 ・保護者に園の建学の精神と教育について理解と協力を求めていくこと ・保護者に保育所における教育への理解を深めてもらう工夫 ・学識経験者が幼児教育について世論に伝える ・保育士自身が毎年幼児教育について理解を深めていけるような研修体系の構築を図り、資質の向上を図っていく。 ・保護者向けの掲示物の中で養護・教育の項目を設け、アピールしていく ・幼児期に大事にしたいこと、育てたいことなどを保育者と保護者の中で確認、伝え合う場を持つ ・幼児期に育みたい資質などの明確化
②幼児教育・保育の質の向上	・体系的な研修の実施 ・園内研修（ＯＪＴ）の充実 ・職員が学び合う機会の設定 ・研修に参加できる体制づくり ・職員個々のフォローアップ体制の強化 ・教職員のチームワーク向上（園児に関する情報交換等連絡を密にする） ・他園の活動等の見学や交流 ・処遇改善、労働条件の改善 ・働き続けられる環境づくり ・離職防止対策
③家庭との連携	・園での取組や幼児の様子を伝えながら保護者の意識を高める ・子どもの特性を保護者が理解できる機会を増やす ・親子で保育に参加する機会を増やす ・幼児教育、幼稚園の方針に家庭の理解・協力を得る ・園と保護者が連携し、それぞれの役割をしっかり果たしていく取組 ・保護者との意思疎通を良くするために話し合う回数を多く設ける
④特別な配慮を必要とする子どもへの対応	・特別支援を要す（いわゆる気になる子）について行政として把握し、補助や、入園前→在園→卒園前→小学校就学の流れを作ること。 ・インクルーシブ教育の現場経験者に個々の園の悩みなどをサポートしてもらえるような体制づくり ・保護者への情報公開（同じ立場の方々の情報共有・悩み相談の場など）が身近なところにあり、保護者自身の悩みを受け止め、子育て観を前向きにさせてあげられる支援
⑤幼保小のさらなる連携	・小学校教諭の幼稚園・保育園見学 ・小学校との連携を義務化し、異年齢交流のマニュアルを整備する。 ・小学校との接続についての在り方の議論とアプローチカリキュラムを実践の中でどう取り組んでいくかの明確化 ・互いの教員がそれぞれの施設を見学し合ったり、学び合い情報を共有し合えるような場の設定。 ・保育所で行っている教育について小学校に理解してもらえるような連携 ・幼児教育と初等教育の異同を各現場が共通認識しそのうえで子どもの発達の連続性をどのように支えていくかを検討する。 ・学校見学や児童との交流だけでなく、小学校の教員と一緒に学ぶ場や、意見や情報を交換する場の設定

◇子どもの育ちについて

課題	取組
⑥身体機能の低下	・日々の保育の中に、計画的に運動遊びを取り入れ、体を動かす機会を作り、体を動かす楽しさを知らせていく。 ・外で身体を使って遊ぶ経験や時間をしっかり確保する。 ・散歩など自然の中に出ていく機会を多くする
⑦非認知的能力、社会情動的スキル、自己肯定感の向上	・体験型保育、失敗を恐れず過程から学びとる教育の推進 ・子どもの遊びの質を高め、より楽しいものにする ・集団生活の中で多くの人との関係性を持つ機会を増やす ・先生主導の設定保育ばかりではなく、子どもたちが選択し、自分たちの考えを具体化できる環境をつくる ・大人主導の管理型保育ではなく、子ども一人一人の個性をしっかり捉えたうえで、子どもの自発性を尊重し、子どもが伸びようとする力を引き出していく保育の取組 ・子どもたちが自発的に取り組み，達成感が味わえるような活動や機会を設ける。 ・自己肯定感を育てる取組 ・様々な体験の中で決まりの大切さをきちんと知らせていく ・異年齢構成の生活と活動を積極的に取り入れる ・周りが答えや道筋を作るのではなく、子ども自身が考え、「やってみよう」とする強さが育つような保育環境づくり
⑧基本的な生活習慣の確立	・生活習慣の大切さを伝えていく場の設定 ・保護者も含めた生活習慣の見直しと改善 ・「早寝・早起き・朝ごはん」のようなプロジェクトでの啓蒙 ・子供が十分に体を動かしたり、自然に触れたりしながら遊び、生活リズムを整えながら心豊かに育つための環境整備 ・子ども自身が食事に興味を持てるような食育活動
⑨実体験(生活体験、自然体験、社会経験)の不足	・子どもたちが日々の生活の中で、様々な経験ができるように、遊びや活動を充実させていく。 ・自然の中での実体験 ・たくさんの人との関わり ・家庭で経験することが難しくなっている戸外遊びや、小学生やお年寄り等地域交流の充実
⑩電子機器の長時間使用等の健康への影響	・情報機器の取り扱いについて、子どもへの影響を含めて健診や児童施設などで講話を入れながらパンフレットを配布する。 ・メディアの影響の怖さを保護者や子どもに繰り返し伝えることと実体験の楽しさを提供すること ・子どもとメディアとの時間が、本来乳幼児期に学んでほしい大切なもの（親子の時間・人との関わりなどを通して習得すること）を奪っている現状を具体的な例を挙げて伝える。

◇子育て家庭について

課題	取組
⑪親子の関わりの希薄化、大人との愛着形成が不十分	・親としての心構えや子育てについて学ぶ機会の設定 ・親子で関わりが持てる行事の取組、保護者も巻き込んだ活動 ・各年齢において信頼できる大人との安心感の基盤づくり ・保護者も含め、人とのふれあいの大切さを伝える機会の創出 ・就学前の子を持つ親のあり方の見直し ・働き方の改革、労働時間の短縮

⑫家庭の子育て力、教育力の低下	・保護者への子育て支援 ・きめ細かな子育て支援体制づくり ・子育てに関する情報の提供と気軽に相談できる場の提供 ・家庭で取り組んで欲しいことを明確に伝えるとともに、方法を具体的に示すこと。 ・保護者主体の子育てができるように啓蒙していくこと ・子育てに関する不安や悩みを共有できる場の確保 ・保護者同士が相談し合い、交流する場の設定 ・懇談会や外部講師による子育て講習会の開催 ・妊婦を対象とした教育の機会を増やす ・乳幼児の保護者を対象とした教育の機会を増やす ・高校生への子育て教育（学校での授業、幼稚園・保育所見学）

◇その他

課題	取組
	・幼児教育予算の拡充 ・幼児教育の無償化 ・子育てへの財政支援（医療費助成、子ども手当） ・子どもの虐待や貧困家庭に対しての支援 ・子育てにやさしい社会的環境整備（育児に対する職場環境－育休・時短・休暇が取れやすい職場等） ・幼稚園教育要領の抜本的見直し ・主管官庁の一本化

No.	①　幼児教育について、現在の一番の課題は何だと思いますか。	②　①で挙げていただいた課題の解決に向けて、どんな取組が必要だと思いますか。
1	社会の環境も親の育児も、子どもが受身のままですむ教育が多く、失敗しないよう、又結果のみの評価になっていること。	子どもの意欲や自発性、又自己肯定感を高める幼児教育を推進していくことで、体験型保育、失敗を恐れず過程から学びとる教育の推進。
2	人としての育ちの基本的な事を、家庭教育や幼稚園教育の中に根付かせること。	子育て世代の親のニーズの把握から取組み共有していく。
3	１　子育て支援 ２　子育てから親を引き離そうという社会風潮（政策）の是正。	きめ細かな子育て支援体制づくり
4	親が子どもと接する時間が少なくなっている。女性の社会進出もわかるが、０～９歳のシングルエイジ期は母親の愛情が一番大事。幼稚園でやれることは限られており、基本は家庭教育。もっと子どもと接してあげてほしい。ただ、逆に過干渉になっている親も見受けられるので、いわゆる親業の教育も必要？	幼児を持つ女性の働き方の改善。短時間労働とか、企業の協力も必要だし、企業に対する国の助成も必要。国として、幼児をどのように育てていくのかが課題の気がする。仕事に合わせて子どもを長時間預けるような施設ばかりを作るのは反対。
5	幼児期に、特に母親が寄り添うことの重要性を認識してほしい。	母親が継続して働くことを、進めている政策に疑問を感じます。子ども本位に考えて、育児休暇の延長など就学前の子を持つ親のあり方を見直してほしい。その上でどうしても働かなくてはならない母親がいると思いますので、その場合には保育所に入所すると、働き方により、幼稚園の預かり保育利用で十分まかなえる親もありで、待機児童の問題も解消されると思います。
6	幼児教育は「遊びを通して」と言われているが、「絵が上手にかける」「歌をたくさん覚えた」など〇〇ができたという事がクローズアップされ、「〇〇ができるようになった」という過程の大切さが軽視されている傾向がある。「しつけ」ができておらず、叱れない母親が多く養護的な要素も幼児教育にも入ってきている。（生活習慣の確立）	・家庭教育の大切さをもっと重視する（文科省中心に） ・０歳から３歳まではしっかりと養護的な生活を（厚労省管轄）重視し、３歳からは文科省管轄である幼稚園での教育を望みます。
7	「子どもの自発性」の尊重が自主性強制となりがちなところ。	子どもの遊びの質を高め、より楽しいものにする取組。
8	心の教育　他者への配慮・心配り	特に新しい取り組みというわけではなく、昔から子どもを育てるときに教えてきた「人への心配り」や「思いやり」を、あらためて大人が見直し、言葉ばかりでなく「他者への配慮」が実践されている環境をつくるとよいと、思います。
9	自分で考え判断し実行する力をつける（言われたことはするが、状況をみて考え判断し行えない）	自分で考える時間や考える要素を豊かに与える
10	１．現在は、待機児童の問題で保育所や保育士不足の事ばかりが話題となっていること。 ２．子育て中の保護者が、情報に振り回されていること。 ３．過保護や過干渉で、子どもの自立が遅れていること。	１．幼稚園が、発達に応じた必要な経験から多くの学びを得る場であると、保育所と同じように紹介していく事。 ２．情報提供は必要であるが、情報による子育てではなく、あくまで保護者主体の子育てができるように啓蒙していく事。 ３．子育て支援などを通して、子どもが自立していけるような環境について保護者とともに考えていく事。
11	幼児が自分を肯定し、また他者との違いを認め、友だちの良いところに気づき、その事を集団生活の場で共有することができるように教師集団がチームとなって援助し育てていくこと。保護者や地域の大人たちが、幼児期の育ちについて就学のための準備ではなく、幼児期の育ちの大切さについて理解し共に育てていけるように啓蒙していくこと。	幼児一人ひとりの特性にしっかりと向き合えるように少人数、縦のつながりの環境を整え、幼児が一緒にいる大人からしっかりと愛されている実感が持てるようにつきあい、一緒に発見し、喜ぶ環境作りが必要になる。また、保護者が子育ての孤立感を持たずに過ごせるように手助けしていくこと。

No.	①　幼児教育について、現在の一番の課題は何だと思いますか。	② ①で挙げていただいた課題の解決に向けて、どんな取組が必要だと思いますか。
12	保護者の価値観の多様化、保護者が仕事を持つことによる多忙化等により、過保護な中で育った子がいるかと思えば、全く投げやりな中で育った子がいるなど、入園してくる子供達の言動・性格が以前よりも多種多様になってること。	遊びやトラブルを含めた様々な体験をさせることを通して社会性を育んでいくこと、研修を通して教員の指導力を常に向上させること、保護者との信頼関係を構築して教員と保護者との連携を密にすることなど。
13	幼児にとって一番大切な環境は教師なので、優秀な人材確保や意欲の向上、研修の積み重ねが大切である。一方労働基準の遵守も求められている。現状の私学の補助金体制では、多くの場面で無理が生じてきていると感じている。	私立幼稚園を全て認定こども園にするより、預かり保育の補助金体制を仙台市として充実させることによって、預かり保育の推進が図られると思う。現在の補助金体制では、なかなか充実は図れない金額であると思う。
14	一番の課題は親である。具体的には、子育てする親の意識や考え方を育てることであり、親の悩みを聴いたり相談に応えたりすることができるようにすることである。	①高校生に対する子育て教育（学校での授業、幼稚園・保育所の見学）②妊婦を対象とした教育の場を設ける③乳幼児の保護者に対する教育の機会を増やす④幼稚園・保育所の保護者を対象とした講話等を聴く場を増やす⑤保護者が悩み相談を気軽にできる場を設ける
15	自然とかかわる経験が乏しい。	家庭、園生活の中で自然とかかわる環境を意図的に構成する。
16	・現在の幼児教育を今後も安定して行っていけるのかどうか。（認定こども園の移行に伴い） ・家庭の教育力の向上に社会が理解を示して欲しい。	幼稚園の特性を生かしつつ、預かり保育などの充実を図り、地域の子どもを誰でも親の就労に関わらず、受け入れられるようにしていく。
17	子育ての楽しさを知らない・知ろうとしない親が多すぎる社会になりました。楽しさを伝える教育カリキュラムがほしいのでは。	今行っているのでしょうか?高等学校での職場体験が、単位認定教科のようにはならないのでしょうか。子育ての仕方が分からないのに、職場での楽しさ・大変さだけが学習要素になっている。一人で育てる苦痛・大変さそしてそこから生まれてくる楽しさ。その辺がおろそかになっているのではないでしょうか。
18	幼児期に、特に母親が寄り添うことの重要性を認識してほしい。	母親が継続して働くことを、進めている政策に疑問を感じます。子ども本位に考えて、育児休暇の延長など就学前の子を持つ親のあり方を見直してほしい。その上でどうしても働かなくてはならない母親がいると思いますので、その場合には保育所に入所すると、働き方により、幼稚園の預かり保育利用で十分まかなえる親もありで、待機児童の問題も解消されると思います。
19	・社会的な認識として、教育と保育、福祉の違いが知られていないこと。 ・社会ニーズからすれば、幼稚園だろうが保育所だろうが都合や勝手が良く、お金がかからなければどちらでも良いというような価値観でより良い社会はないのではないかと思う。	幼稚園は教育なのだから、子供未来局ではないと思います。せめて、教育時間の専門部署、預かり保育は未来局でも良いと思いますが。
20	家庭・地域社会・幼稚園それぞれが、幼児教育の役割を十分に果たしているかということ。	家庭・地域社会・幼稚園それぞれの教育機能を十分に発揮できるように、三者が連携しながら総合的に幼児教育を推進していく。
21	個々の子どもに合わせた教育や対応が出来ない	クラスの人数を減らしたり、関われる教諭の人数を増やしたりする
22	幼稚園の保育園化が進んでいるように思う。	幼稚園を教育機関として、子供を育てやすい助成や補助の拡充を望む職員の処遇改善にも取り組でほしい。
23	子どもも、そして親も含めた教育が必要	預かる、保育する、だけではなく、園と家庭との連携をしっかり作っていくことが大切だと考えている。
24	家庭での体験・経験不足を補い、一人ひとりが十分に自己発揮したり、自分で考えて行動する充実感を味わったりできるようにしていくこと。	家庭とも連携をとり、園での取り組みや幼児の様子を伝えながら、保護者の意識も高めていく。

No.	①　幼児教育について、現在の一番の課題は何だと思いますか。	②　①で挙げていただいた課題の解決に向けて、どんな取組が必要だと思いますか。
25	教育要領の「援助」と「指導」を復活すべき。	幼稚園教育要領の抜本的見直しＧＨＱ戦後教育からの脱却を早急に実施すべき。
26	親子が関わって遊んだり会話を楽しんだりする時間やゆとりがなくなってきている。又公園など安心して遊べない社会環境である。	国として女性の社会進出に力を入れるよりも子育ての楽しさ、助け合って子育て出来る場を広げる社会になることを願っている。
27	・集団生活に慣れて、話を聞ける集中力を身に着けられる事 ・物事の善悪を判断できる能力を身に着ける事	一斉指導を行う中で、苦手な子どもには個別の指導を並行して行うことが重要である
28	教育要領の「援助」と「指導」を復活すべき。	幼稚園教育要領の抜本的見直しＧＨＱ戦後教育からの脱却を早急に実施すべき。
29	子どもの成長に向けて、幼稚園と家庭と同じ方向性での教育・指導（本来、家庭の躾などを幼稚園まかせにする事が多い）	幼稚園と家庭とで密に話し合いを持ちながら、子どもの成長の手助けをする。幼児教育・幼稚園の方針に家庭の協力・理解を得る。
30	人材不足。特に幼稚園（教育）	何度も大変な思いをしているので、何がどうなれば改善されるのかわからない。正直、辟易している。
31	子どもの長所に気づき、褒め、それを伸ばすのは大人の役目。それができる大人に子どもとともに成長すること。	大人の学び。
32	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を幼稚園教諭と小学校教諭それぞれが、同じ考えをもち子どもに携わる事。それだけの力を幼児期に育ててきているのだから、その発揮の可能性をとらえて、環境や活動の設定を用意することが必要だと考える。	小学校教諭の幼稚園・保育園見学。
33	五感をフル活用して，興味関心のあることに粘り強く取り組み，じっくりと遊びこめる子どもを育てること。	・教師主体の教育ではなく，子どもたちが選択し，自分たちの考えを具体化できる環境づくりをする。 ・子ども一人ひとりの成長をしっかりとみとり，あそびや活動のプロセスを大切にしながら教師の役割を理解した上で教育ができるよう，園内研修を実施し，資質や能力の向上に努める。
34	幼児教育に係わる教師自身が様々に経験不足である。	年代を超えた人とのかかわりの中で、個々が学ぶ機会を与え、実践する余裕を持てる環境、組織体制をつくる。
35	心の豊かさ、人を思いやる優しさなど生きる力を培うこと。	日々の保育や行事等で、人と触れ合う機会を多く設けていくようにすること。
36	（一番の課題という設問は難しく、記入することをためらいました。問題として感じていることは幼児教育以前の問題かもしれません。あえてあげれば）スクールバスや預かり保育の利用者の増加により、登降園の時刻がバラバラ、また、長時間幼稚園にいるということで、保育活動の持ち方や、幼児にとって快適な環境を提供すること	スクールバス運行（経路等）の見直し。保育案作成時のきめこまやかな配慮。また、教職員のチームワーク（連絡を密にする、園児の情報交換等）
37	幼児教育よりも家庭教育が出来ていないため園で教えなくてはならなくなり教育時間が減る	家庭への呼びかけ
38	様々なことに関して、経験不足の子が多くなってきているように感じる。また、家庭で身に付けるべきことがなかなか身に付けられず、入園してくる子も増えている。	地域・家庭との連携を密に取りながら、幼稚園が子育て支援の場となり、ともに子どもたちを育てていけるような環境を整える。子どもたちが日々の生活の中で、様々な経験ができるように、遊びや活動を充実させていく。
39	基本的な生活習慣の体得 ・早寝・早起き・朝ごはん（食事の習慣、心身を作る） ・挨拶をする（言葉を発する、自己表現）	・子供たちへの声がけ、働きかけで意識付けをする。 ・保護者が関心を高められるような印刷物配布・集会開催。

No.	①　幼児教育について、現在の一番の課題は何だと思いますか。	② ①で挙げていただいた課題の解決に向けて、どんな取組が必要だと思いますか。
40	保護者からのクレーム等により、若い先生が萎縮してしまい、子ども達との関わりが薄くなり、様々が悪影響が出ている。	一人で抱え込まず園全体で解決していくよう導いてはいるが、一度崩れてしまった保護者との関係はなかなか修復できず、一年足らずで離職してしまうことが多い。子どもの情報に関して、保護者と担任の間で共有していなかったり、思い込みがあったりで意思の疎通が出来ずにいる場合が多い。園側からの情報をなるべく公開し、不信や不満を保護者の方がなるべく抱え込まないよう働きかけていく必要があると思われる。
41	相手の思いや気持ち痛みを感じて、理解しようとしたりする経験が、今の時代は、なかなか薄れてきていると感じるので、たくさんの友だちとの関わりをすることが大切だと思います。	家庭内では、室内での遊びやゲーム、スマホなどの経験が多くなりがちな気がするので、集団での生活の中で、多くの人との関係性を持つことが必要だと考えています。
42	家庭との連携（幼児教育に十分な時間やお金をかけられる余裕の無い家庭が増えているように思う）	子育て世代への多方面における支援（行政が中心となって）
43	親の子育てに対しての意識の低下。子供の育ちに目を向けてほしい。	子育てについての情報提供の機会を設け、気軽に子育ての相談ができる場を提供する。
44	幼児の体力の衰え	普段から体を使ってたくさん遊ぶ。運動遊び。
45	積極的に人と関わる力、考える力を育てる	子ども同士が遊びを通して、発展させたり、工夫したり、主体的にかかわることができるような遊びこむ時間を多く儲ける。先生主導の設定保育ばかりではなく、子どもたちと作る保育を多く取り入れる。
46	・子どもの自主性・自発性を育てる環境 ・保護者との連携の難しさ	・指導者の人材の向上 ・保護者との信頼関係の構築
47	親の子育てに対しての意識の低下。子供の育ちに目を向けてほしい。	子育てについての情報提供の機会を設けることと、気軽に子育ての相談ができる場を提供する。
48	一人一人が目的を持って物事に取り組む中で，壁にぶつかったり，乗り越えていったりして，成長していく姿が減ってきていること。	・一人一人に合ったねらいを立てて，教師が丁寧な援助を行う。 ・子どもたちが自発的に取り組み，達成感が味わえるような活動や機会を設ける。
49	①発達障害等の幼児が増えていることや、②一人ひとりの子どもに、幼児期に幅広い経験や思考が不足していること。③幼稚園として、多様化する保護者と向き合い、折り合いをつけながら進めていくことの難しさ。④幼稚園教諭になろうとする人が減っていること。⑤保護者支援。	発達に問題を抱える子どもや保護者が気軽に、そして十分に相談したり、支援してもらえたりできる環境の整備。各幼稚園の特色を生かし、地道に努力していくこと。それと当時に、幼稚園での教育の素晴らしさを場所を数多くの方に理解してもらうための機会の確保。
50	自制心、規範意識の育成	保護者の教育に対する再認識が不可欠
51	小学校入学のための準備教育ではなく、幼児期に求められる教育活動展開のための環境づくり。	・非認知的能力育成のための，教職員及び保護者の意識改革 △入園希望者獲得のためだけの特色ある（？）活動
52	教職員の確保、育成	
53	軽度発達障害の子どもへの理解	障害のある子の受け入れについて、安易に受け入れを拒否するのではなく、その障害の度合いも一人ひとり違うことを身をもって学びながら、出来る限り受け入れていく方向性を持つべきだと思う
54	保護者の理解が得られにくい	子どもの特性を保護者が理解できる機会を増やす。難しいが、親子で保育に参加する機会を増やす等。
55	教育の格差	・行政による環境の整備、経済的援助（保護者、教育施設への） ・保護者への啓もう、啓発（教育的意識）

No.	①　幼児教育について、現在の一番の課題は何だと思いますか。	② ①で挙げていただいた課題の解決に向けて、どんな取組が必要だと思いますか。
56	・子供の生活習慣の確立（本来家庭で身につけるべき基本的な生活習慣にも目を向けていかなくてはいけない） ・教師の資質の低下に伴う保育の質の低下	・家庭と連携して、保護者に協力してもらうこと ・幼稚園は魅力ある職場であることを広めて、幼稚園教諭志望者を増やすこと
57	預かり保育利用等で、園にいる時間が長くなり、保護者との関係性・情緒等の安定を図ること。 保育の質の低下。	通常保育と預かり保育の区別。保護者支援。
58	現在未就学児童に対する施設はいろいろあります。教育・保育環境もかなり異なっています。それは保護者の状況（就労・健康・家族等）や子供の健康状態により、やむを得ないものもありますが、今般「こども子育て新制度」がスタートしたこともあり、仙台市の子供たちにとってよりよい教育・保育環境を整備することが急務であります。	身近な例として仙台市の4歳児に対し、文部科学省、厚生労働省、内閣府等関係機関の縦割り行政を受け、県や仙台市が所管し、事にあたっていただいておりますが、国からの行政内容を仙台市に合ったものにするためには、やはり実態に応じた独自対策が必要と考えます。
59	保護者とのかかわり 保護者との関係性の変化	園の方針をしっかり理解していただく。 家庭ですべきことと園に求めることの違いを保護者と共に認識する。
60	相手を思いやる気持ちを育てることです。幼児の時から育てることが大切だと思います。	一人ひとりの幼児に細かく目を向け、注意深く保育をしていくこと。
61	幼児を取り巻く様々な環境の変化がある中、家庭・地域社会・幼稚園が総合的に幼児教育を提供すること。	幼稚園・家庭・地域社会が連携していく。
62	幼保一元化やこども園の普及など、待機児童解消を目的に対策を進めていただいておりますが、幼児教育の捉え方が幅広く考え方、捉え方に各施設それぞれ偏りが生じてはいないのでしょうか。小学校就学を目標とし幼児がどれだけ基本的な生活習慣を身に付け小学校生活をスタートし授業に取り組めるのか、子供の将来を見据え成長の基盤である幼児期を大いに生かせるよう必要な教育カリキュラムを計画していくことが大切なのではないか、と思います。同職種の方々の情報共有や理解が必要ではないかと思いました。	現実的には難しいかもしれませんが、保育園（所）、こども園、幼稚園が枠を超えて、互いに見学したり情報交換をする機会があるとありがたく思います。同年齢の幼児が異なった環境の中でどのような育ち（成長）が見られているのか、我園の園児は同じ地域の子供達の成長と比較して課題はないのか、など視野を広げて今後の幼児教育について考えることができるのかもしれません。
63	いろいろな物事に、前向きにチャレンジする意欲を持つこと。時と場を考えて過ごせるようになること。我慢する時はする、今、それをしていいのかどうかを考えて行動できるようになってほしい。	テレビ、スマホなど娯楽の多い時代の中で、自然との関わり、人との関わりなど、様々な経験ができるようにしていきたい。
64	保護者が子育ての主体となれるような支援の在り方と高い専門知識と技術を兼ね備えた職員の育成	・人が人を育てる尊さや大切さと共に親としての心構えや子育てについて学ぶ機会の設定 ・働く親の支援と家庭で子育てする保護者への支援を同等に ・職員の処遇改善、専門性を高める研修体制への支援
65	人材・人員不足 より少人数クラスで子どもをみられる環境	大幅な予算拡充
66	多様化する状況にあって、その変化に対応しつつも、保護者・地域などと連携して幼児教育を続けていくこと。	人材の確保と育成。
67	・社会的な認識として、教育と保育、福祉の違いが知られていないこと。 ・社会ニーズからすれば、幼稚園だろうが保育所だろうが都合や勝手が良く、お金がかからなければどちらでも良いというような価値観でより良い社会はないのではないかと思う。	幼稚園は教育なのだから、子供未来局ではないと思います。せめて、教育時間の専門部署、預かり保育は子供未来局でも良いと思いますが。

No.	①　幼児教育について、現在の一番の課題は何だと思いますか。	② ①で挙げていただいた課題の解決に向けて、どんな取組が必要だと思いますか。
68	家庭ですべきこと、園でできることの境が曖昧になってきているように感じます。特にしつけの面に関して、そのように感じます。	子供の成長に向けて必要な支援に対する共通理解を図ることができるよう、園の方針をご理解いただく場や、保護者との面談ができる場を設けていく必要があると思われます。
69	・親の教育 ・教員の質の向上	・教育機関が子育ての悩みを聞いてあげられる環境、子育てのヒントや道しるべになるものの提供。 ・教員同士勉強（研修）ができる時間の確保
70	子どもの心が満たされない	親子の関わり方 大人中心で、子どもが二の次になっているように思われる。子供をもっと理解し、幼児期に何が必要か、関わり方をしっかり学んでほしい、心得てほしい。
71	教師の資質の低下	研修（園内、園外）、複担任、指導教官を付ける。価値観の共有、教師の待遇改善（給与面も含む）、待遇改善のための公的補助（運営補助）
72	幼児を取り巻く様々な環境の変化、家庭・地域社会の教育力の低下による自然体験、社会体験の不足	家庭、幼稚園、地域との連携体制の整備
73	健やかな脳を育てること 学ぶ土台をつくること	①規則正しい生活習慣で「古い脳」を鍛える ②会話と遊び「新しい脳」を鍛える ③論理的思考の土台を作って、心を強くする
74	親になりきれず，自分の時間や生活スタイルを優先し，子育てに不安や負担を感じている保護者への子育ての素晴らしさ，面白さ，楽しさを感じてもらうこと。	保育の場であれば，子どもの成長を共有し，子育ての楽しさ，喜びが得られるような保護者支援を行っていくこと，日頃の苦労を労うとともに，保護者自身の達成感，肯定感が得られるような取り組みが必要。「自分だけではない。」と，不安や悩みを共有できる場の確保。また，解決の糸口を自分自身で見つけられるような子育て中の保護者の話し合いの場。
75	自己肯定感の低さが自ら考えたり学ぶ意欲の低下につながっていること。	・０歳児から５歳児までの育ちの中で、子ども達一人一人が自分の良さや得意なことを発見できるような活動の取組み、子どもたち同士が互いに認め合う集団づくり、その姿を保護者に伝え家庭と共に子どもの育ちを支えていくこと。 ・保育士自身が肯定的な捉え方をするためのトレーニングや研修
76	・子育てに不安や負担を感じている保護者が多く、生活の乱れや自己肯定感がもてないような関わり（環境）の中で育っている子が多くなっている。 ・保育所における教育の理解と啓蒙ができていない。	・保護者が子育てに自信をもって取り組めるよう、子育て支援の充実や社会環境の整備が必要と思われる。 ・教育的関わりや保育内容の充実などに取り組むことが大切だが、まずは保育環境（人・物）の改善は必要と思う。
77	幼児期に育てたい力についての共通認識が社会全体でできていないし、幼児教育の重要度が高く評価されていない。出来た・出来ないで判断される能力よりも、意欲や自制心、思いやりの心等を育て高めることが大切だと、保護者にも理解してもらうことが難しい。保育士自身、説明責任が果たせていない。	・保護者に保育所における教育への理解を深めてもらう工夫 ・子育て支援センター等の事業を通した地域の子育て家庭への啓発 ・職員の意識向上にむけた研修や学びあう機会を設ける
78	子どもの心の受容と共感 自己肯定感と有能感を持たせた幼児教育 非認知能力の見直し 学びに向かう力	・子どもの心に寄り添うこと。安定した愛着関係を築くこと ・子どもの可能性の見守りと励まし ・探究心・心情・意欲・態度が育つ一貫した取組 ・連続性と見通しのある、系統立てた活動カリキュラム

No.	①　幼児教育について、現在の一番の課題は何だと思いますか。	② ①で挙げていただいた課題の解決に向けて、どんな取組が必要だと思いますか。
79	行事主体の保育になりがちで子どもの自主性を生かした保育になっていないこと。	子どもが考えて決める機会を増やしたり，言葉や表現で自己表現する経験をしながら，子どもの行動や思いを肯定的に受け止め，共に考えていく保育が必要と考える。
80	・生活習慣の確立 ・子どもを取り巻く環境（家庭，社会） ・子どもの興味，関心，意欲	・子どもの発達支援と保護者支援 ・幼児教育施設の質の向上，施設整備 ・職員の資質向上，研修制度の充実
81	協同性、道徳性・規範意識の芽生え 感情のコントロールや自己コントロールをする力	更に地域との連携、保育所で行っている教育について小学校に理解してもらえるような連携を行う。
82	安定した家庭環境 基本的生活習慣の確立 自己肯定感の確立 学びの基礎となる興味・関心・意欲を育てる	保護者と連携。保護者支援とともに子どもについて共通理解する。保育所でいろいろな遊びを通して、興味関心を持たせたり、考えたりする場面を多く持ち、家庭にも知らせていく。
83	教育というと、ともすると学校教育的感覚で保育をすることを考えてしまうが、乳幼児の日々の生活は、基本的生活習慣の確立とともに、教育そのものであることを保育者自身が理解し、よりよい学びを提供するためには、生活の場にどのような教育的要素が存在するかを、保育者は意識しなければならないと思うので、保育者の幼児教育に対するさらなる「学び」が課題と考える。	幼児教育に関する研修。年齢別・階層別等様々な研修の中で学びを深め、保育者が保護者を含めた他者に対する発信力を高めていくことが必要だと思う。
84	・年々、子ども達が、地域の中で伸び伸びと遊ぶ環境が減少し、様々な遊びを体験する機会が少なくなっている。 ・ＤＳや携帯などの情報機器での遊びが増加していることで、今後の子ども達の身心の健康への影響が危惧される。 ・多様な文化や人々に触れていく機会が少ない。 ・日本独自の伝統文化の継承が廃れつつある。	・情報機器の取り扱いについて、子どもへの影響を含めて健診や児童施設などで講話を入れながらパンフレットを配布する。 ・七北田公園の様な大人も子供も安心して遊べるような施設が、せめて区ごとにあれば市民全体が楽しめるのでは。 ・地域の中での伝統文化の継承の実態ががどのようになっているか検証していきながら、取組体制を構築していく。
85	地域や家庭の状況の変化と核家族化の進展や地域のつながりの希薄化などから、子育てに対する支援や協力を得ることが困難な状況であることや、様々な経験がないまま親になることが増え、子育て力が低下していることなどから、子育て支援が必要になっている。それらに伴い、育児ストレスを抱えてしまったり、虐待の発生に繋がったりしている。	保護者に対する支援が大切になってくるため、相談できる場や交流する場の充実。貧困家庭や外国籍家庭、特別なニーズを必要とする家庭への支援。家庭の多様な背景に合わせての関係機関との連携。保育士の専門性の向上。
86	子どもの問題と言うより取り巻く様々な環境の変化が大きく，特に親世代のスマホやゲームへの関わりが増え，生活リズムや遊びへの影響も考えられる。人とのコミニケーションや体験の中からの学び，乳児期からの身体活動の減少が心配である。	友だちと共に遊ぶ楽しさを十分経験する。遊びや生活の中で思いや困っていることを伝え合う機会に意識して取り組む。自分から気づき考え実際に行う経験ができる環境作りと援助。課題がある遊びに友だちと話合い相談しながら取り組む活動。感覚統合の視点を持った遊びの取組み。
87	・社会全体的に、幼児期の教育について理解不足である。 ・保育士自身も幼児教育について、勉強不足・認識不足であり、同じように保護者も理解が不十分である。	・学識経験者が、幼児教育について世論に伝える。 ・保育士自身が毎年幼児教育について理解を深めていけるような、研修体系の構築をはかり、資質の向上をはかっていく。
88	・子育てに効率や画一性を求める風潮の中で，子育ての大変さ・苦しさがクローズアップされている。大変さや苦しさも含めて理屈通りにいかない面がありながら面白さ・楽しさがある，子育ての醍醐味に気づけず前向きに捉えられない状況があることが問題だと思う。 ・現代の世の中の価値観とは違う，子育ての価値観や文化の継承がなされていないこと。	子育ての多様性を社会全体で継承していくこと。それを許容できる制度が社会に整っていくことも必要。子育ては社会全体で支えていくものであることと同時に，子育ての＋－両面を親が担っていくことが必要であることを親自身が自覚できるようにすること。

No.	①　幼児教育について、現在の一番の課題は何だと思いますか。	② ①で挙げていただいた課題の解決に向けて、どんな取組が必要だと思いますか。
89	子どもの興味や関心を広げていくことや好奇心，探究心を持たせていくこと。	・いろいろな活動や経験を通して好奇心，探究心を育てていくこと。 ・言葉でのコミュニケーション能力を高めていくこと。 ・親子で一緒に体験したり共感したりすることが普段の生活の中で　多くなっていくこと。
90	さまざまな家庭の背景があり，メディアや情報の多様化，複雑化も加わり，子どもを取り巻く環境が近年大きく変化している。職員が一人一人の子どもと向き合う時間も増えているが，職員数の欠員もあり，課題は多い。	保護者支援。合わせてクラス運営において全体と個別のバランスを考え，丁寧に保育していく事。そのためには，職員の資質向上が大切と考える。
91	・養育力に不安を抱える保護者とその子どもへの支援。 ・保育とは養護と教育が一体となった素晴らしい営みであることの社会(保護者も含む）へのアピール。	・各関係機関とのさらなる連携。 ・職員の資質向上。（研修，カンファレンス等のさらなる充実） ・職員の資質を高める余裕のある職場体制。
92	非認知能力を育てる事	自分で考え、自分で決める活動、話し合う活動を増やす。
93	・保護者に、「保育所における教育」についてうまく発信できていない。教育＝勉強すること，という観念があり、教育を受ける前の土台作りとして、保育所で取り組んでいることを理解してもらうにはまだ時間がかかる。 ・教育について、意識して保育にあたることが、まだ十分にできていないと感じている。	・懇談会などで、保育所（未満児も含め）での日々の生活や遊びの中で、育てたいことを意識して保育にあたっていることを伝える ・「今月の保育」という保護者向けの掲示物の中で、養護・教育の項目を設け、アピールしていく。 ・保育所における教育について、職員が理解し、自分の保育について話（説明）ができるよう、研修（ＯＪＴなど）を行う。
94	幼児期に必要な生活習慣の確立や子どもの育ちを支えるための学びや体験は、子どもの育ちに大きなウエイトをしめていると思うが、現代は親のライフスタイルが優先になり、その学びや体験の機会が減少していると感じる。	保護者への啓蒙が必要と感じているが一方で、支援の必要な家庭も増えており、保育所等社会的に保障された場での、経験や体験、学びも大きな役割を果たすと考える。子どもを取り巻く、家庭、幼稚園・保育施設等、地域資源（社会）等が関わり合い、子どもを育み育てる仕組みができると良い。
95	・基本的生活習慣の確立 ・家庭における安定した生活基盤の形成(身体面、経済面） ・保育所における教育のねらいとなる体験を通した，意欲・心情・態度等の基礎の育成 ・保育の質の向上	・様々な機関がそれぞれの専門性を生かした保護者支援（支援の中心となる保育所・保育士の丁寧な支援を基本としつつ） ・職員の保育の質の向上を認識した取組（研修等による自己研鑽）
96	子育てをするあらゆる家庭への子育て支援。どんなふうに育てていったらよいのか分からない保護者、一人親、疾患を持っている保護者等不安や悩みを抱えている子育て家庭への支援、それと共に、子育ての楽しさも含めて、その大切さ、親子の触れ合いの大事さ等も知らせていく必要があると思う。特に、０歳児の保育の大切さと共にそのノウハウも知らせていく必要があると思う。	・子育て家庭への様々なサポート制度の確立 ・講演会、研修等で、きちんとその大切さを伝えられるように、保育士自身が学び、保育の質の向上をはかる。
97	子ども達が自ら環境に関わり学び合う	社会生活の実体験
98	保護者が幼児教育に対して十分理解しておらず、幼児期に非認知的能力を身に着ける大切さを保育所と共有できていない。結果がすぐ現れないが生涯に渡っての財産となる非認知的能力を職員が理解し身に着けるための保育の技術と保護者に伝えることができる知識とコミュニケーション能力。	子どもが体験して学ぶ環境づくり。保育士の資質・専門性の向上。特にいろいろな職種の職員、保護者、地域の人々と関わるなどがますます求められてくる時代に必要なコミュニケーション能力が向上する環境。そのためには、職員が忙しすぎ十分子どもを語ることが出来ない職場環境をゆとりのあるものにしていくことも必要と考える。
99	安定した家庭環境、生活習慣の確立、親子の関わりの稀薄、社会的倫理観	・保育所における保護者支援と子どもへの発達支援研修の充実 ・子どもの学ぶ力を育む保育内容の充実

No.	①　幼児教育について、現在の一番の課題は何だと思いますか。	②　①で挙げていただいた課題の解決に向けて、どんな取組が必要だと思いますか。
100	生活習慣の確立 安定した家庭環境 学びの基礎となる興味・関心・意欲を育てる	子どもの発達支援と共に保護者支援・家庭支援の取り組みをすることで，相互に向上していけると思う。
101	・子どもが健全に育つことが難しいと思われる家庭環境への支援。 ・保護者の若年化・一人親・一人親の世代間連鎖・精神疾患・不安定な仕事や貧困など，保護者自身の生活が不安定である。これらのことが，子どもの生活や心身の発達に大きく影響を及ぼしている。	保育所でできる子どもの生活や心の安定につながる保育を行っていくことは必要ですが，親の生活まで踏み込むことが困難ではあることが多いので，地域のサポートや連携，ケースワーカー的な存在が必要であると思う。また，“共に子育て”という視点で，子育てについて丁寧に伝えたり，子育ての喜びを感じられるような共感関係を作っていく取り組みは必要であると思う。
102	社会の変化，家庭や地域の教育力の低下に伴う子どもの育ちのゆがみ（基本的生活習慣の欠如，食生活の乱れ，運動能力の低下，自制心や規範意識の希薄化等）に対して，家庭や地域とどのように連携を図りながら子どもの健やかな育ちを保障していくのか。	・子どもが身近な自然や様々な人（異年齢児，高齢者，地域の人等）とかかわる直接体験 ・家庭と連携しながら子どもの育ちを共有し，保護者が子育ての喜びを感じることができる取組
103	・安心できる環境のもと、子ども達一人一人の自己肯定感を育てること	・保護者が安心して子育てができるように、その時々の悩みに寄り添えるような保護者支援 ・子どもたち一人一人が感動できるような体験を積み重ねていくこと
104	地域や社会全体の子供の育ちをめぐる環境の変化や親の子育て環境の変化で地域や家庭での教育力の低下がみられること	・子育てしやすい社会、環境つくり ・幼児教育に携わる職員の資質向上
105	自己肯定感の低下により、自分で考えて行動する力が弱くなっているように感じる。 幼児教育の在り方があまりにも保護者に理解されていない。	０歳児から５歳児まで連続性のある取り組みの中で、子どもたちの良さを生かせる保育、子ども同士が認め合う集団作りを考え、保護者とともに育てていくことでが必要だと思う。
106	基本的には一人一人の子どもの姿は変わっていないと思うが、個別に配慮が必要なお子さんは増えていると感じる。また、保護者の方に余裕が無かったり、周りに相談する人が無く、保護者の方も含めた家庭支援が必要であると感じる。子ども達一人一人には違った支援が必要であるので、それに応じたきめ細やかな保育をするためにはどうしたらいいのかが課題であると思う。	・保育所の職員一人一人の資質向上の為の体系的な研修の実施 ・職員が余裕を持って保育や家庭支援に取り組むことが出来るような人員配置（職員の確保） ・地域全体で、子どもや子育て家庭を見守り一緒に子育てが出来るような連携作り
107	・子どもを取り巻く環境の変化。タブレット等が身近にあって手軽にでき、どんどん低年齢化している。一方で、安心して遊べる場の減少や時間の制約もあり、好奇心を十分に満たしたり、創意工夫したりすることも少なくなっているように思う。 ・保育所における教育は、子育て力の低下や生活するだけで精一杯な家庭状況も多い為、社会や保護者に浸透し難く評価も低い。	・環境や時代の流れを踏まえ、保護者が取捨選択したり、上手に利用できるよう適切な情報を発信する。時代の変化に関わらず、子育てにおいて大事な事は根気強く、かつわかりやすく伝えていく。 ・教育について職員一人一人が言葉で説明する力をつけ、伝える意識を高める。同時に、多様化する家庭事情を理解し、関連機関との連携を図りながら、適切な支援ができるように保育の質を高める。
108	・子どもを取り巻く環境 社会や地域との関わり，家庭の育児能力の低下 ・幼児期の教育は，人間形成の基礎や生涯にわたる学習の基礎が培われる時期であり，「見えない教育」とも言われるほど，重要性があることを社会全体が認識していない。	・研修等を通じて，幼児教育に関わる職員の資質や専門性の一層の向上を図る。 ・保育所等で培ってきた子育てのノウハウ等を，家庭や地域の子育て支援のために活用していく。
109	異年齢の子ども達や同じ年齢の子ども達とも、遊びの中で群れて遊ぶ経験が持てないことや色々なことに興味関心を広げ行動したくても、安全面等から制限が掛かってしまうこと。自己肯定感を持てない子どもも多く、何かに新しいことをしてみようとする力や興味関心が薄くなっていること	安心できる親子関係、保育士との信頼関係から愛着を十分に受け、のびのびと過ごし、自己肯定感を育むことと環境として安心安全な状況や場所ができること

No.	①　幼児教育について、現在の一番の課題は何だと思いますか。	② ①で挙げていただいた課題の解決に向けて、どんな取組が必要だと思いますか。
110	０歳児から5歳児まで積み上げられる幼児期の教育が児童期の教育の土台となっていることへの理解が保護者を含め社会的にもまだ低いこと。家庭での育児力の低下。	0歳児からの学びの芽生えなどへの取組みと発達の段階をきちんと家庭に伝えていくこと。家庭と一緒に進めていく。
111	保育の中での「教育」は，小学校の教科教育を前倒しするようなものではなく，遊びや生活の中の活動や体験を通して思考力や認識力の基礎を養ったり，様々な習慣や意欲，態度を身に着つけるという事が保護者に伝わりづらい。多くの情報に囲まれた環境の中で，いろいろな知識は増えているものの，学びに対する意欲や関心，自己肯定感が低い児も見られる。	可視化して，具体的に伝えていく。 保育士自身が，幅広い生活体験や自然体験を意識して積み，子どもの育ちや子育て環境の変化に対応したり，発達や学びの連続性に対応できるような力をつけること。
112	幼稚園や保育所で英語教育や体操教室のようなものをすることが幼児教育と捉えられていたり，また，学校教育のようなことを幼稚園や保育所に期待する風潮が未だに根強く残っていて，意欲や自尊心や自己抑制等々幼児期で育てたい力の共通認識が社会全体でされていない。	社会全体での共通理解の必要性を感じる。 ”早寝・早起き・朝ごはん”のようなプロジェクトでの啓蒙が必要では。
113	子育てに関する情報が多く、それに惑わされている感がある。方向性に一貫性がないために、思いどおりいかないと不安になる保護者が多い。	必要な情報が、きちんと伝わるようにしていくことが大切。幼稚園・保育所も同じように教育的なことを盛り込んでいることをしっかり理解していただいたうえで、選択してもらいたい。
114	一人一人を受け止め、子どもが自発的、意欲的に関われる環境を構成を構成すること。	子どもの思いを受け止め、安心感と信頼感を持ってを活動できる環境づくりが必要と思う。
115	生活リズムの確立、遊びの充実、大人からの愛情	大人の生活に、もっと余裕を持って生活すること（子どもが小さいうちは、６時間就労にするとか、社会全体。）
116	体力的なこともありますが、やはり情緒の面で10年前とは違う面が出ていると思います。それは微妙な変化かもしれませんが、愛着の面の差異です。もっと保護者と子どもたちの間に密接な関係性があったように思うのです。今、保護者の方が子どもたちからの働きかけを面倒になっている傾向があります。	この問題は、長い間かかって浸透されてきたことなので、長い期間かかるかと思います。食事をしているときも、お互いのスマホを見ているよな状態から抜け出すためには、幼保、学校、地域、すべてが家族をサポートする仕組みが必要なのではないでしょうか。喜びも悲しも分かち合える環境を構築する、根気が必要な取り組みです。
117	幼児教育の大切さの社会全体での理解	子どもを産み育てる事の大切さ、楽しさ、乳幼児期教育の重要性の幅広い年代での啓蒙活動
118	・子どもたちの生きる力をはぐくむ （人と関わる力・自分で考え選択し、行動する力）	・子どもの気持ちに寄り添い、共感したり共に考えたりできるよう、保育士の質の向上 ・自分で考え、自分で行動できる体制と環境を構築する
119	・幼児教育に関る人材が不足していること（体育教室等の先生も不足していると聞きました）保育の質の向上と掲げられても、毎日子どもたちと向き合っている保育士に余裕がなければ、どんなにいい保育を行いたくてもできず、仕事に対する満足感・達成感も得られい・・・悪循環になっていると思います。 ・小学校との連携がうまくできないところがある。 ・人と関ることの楽しさ・大切さを感じさせること。	処遇改善はとても大切なことだと思いますが、それ以前に“幼児教育”に対してもっと魅力を感じてもらえるような教育をしていくことが大切なのでは・・・何でもスマホとPCで片付け人と関ることの苦手な大人が増えていったのでは将来の担い手がますます不足してしまいそうです。＊各校でスタートカリキュラム等作成しているであろうが保育園側から関わらないと情報等もない・・小学校側からの積極的な関わりがあってもよいのではないか。
120	保護者の就労状況等による生活格差や子育てに対する意識の違いが大きく、基本的生活習慣の自立に向けての取り組みや、教育面での取り組みについての理解など保護者との協力関係を築くことの難しさ。	・保護者も含めた生活習慣の見直しと改善 ・子供が十分に体を動かしたり、自然に触れたりしながら遊び、生活リズムを整えながら心豊かに育つための環境整備

No.	①　幼児教育について、現在の一番の課題は何だと思いますか。	② ①で挙げていただいた課題の解決に向けて、どんな取組が必要だと思いますか。
121	子どもが大人に気持ちを理解されているという安心感、人を信頼できることが教育の根底を成すものだと考えますが、そこが日常の中で、生活の中でつくられにくい状況だと思います。イベントで楽しむことは多くなっていますが、日々の中で気持ちが通い合い、自分が大切にされているという、実感を人との関わりの中でつくることができにくいことが課題だと思います。	子どもが上から管理されるのではなく、子どもの要求や願いをしっかりうけとめ、コミュニケーションを丁寧にしていくこと。生活や遊びの中で楽しかったの共感を豊かにつくっていくことを実践できるための研修が重要だと考えます。また、保護者と子どものことを一緒に考えていくことができる関係づくりや、子どもの丸ごとを受け止めていくことの大事さを保護者の中に伝えられる力をつけていく研修
122	メディア（テレビ、パソコン、スマホ、携帯、ゲーム機、タブレット、ＤＶＤ等）と関わる時間が多すぎることが心の育ちを妨げていること。	メディアが及ぼす子供の脳への悪影響について、保護者はもっと知るべき。子供とメディアとの時間が、本来乳幼児期に学んでほしい大切なもの（親子の時間・人との関わりなどを通して習得すること）を奪っている現状を具体的な例をあげて伝えるなど、危機感を覚えてほしい。しかし国や自治体、企業など国をあげた取り組みがなければ幼児教育の改善は望めない。
123	一番の課題は、習い事を教育と考えている大人が多い傾向にあるということ。習い事をさせることで、教育をしていると満足しているように思う。実際の子どもの姿としては、人の話を集中して聞く、自分の思いを言葉で伝える、相手の事を考えるなどの事が育っていないと感じる。これらのことを分っていないと感じる。	保育所においては、保護者に向けて子ども達は遊びの中から色々な事に興味関心を示し、沢山の事を吸収し学んでいくことを懇談会などを通して話をしている。あわせて、養護も大切にしながら、教育にも力を入れて保育している事も伝えている。
124	それに携わる保育士の意識。保育所保育の中でも教育的効果は十分あり、それは遊びを通しておこなれているものであるため、あたかも無意味な遊びととらえてしまっている保育士も少なくないこと。どんな活動でも子どもにとっては意味があり、教育的効果を望める部分が多々ある。それを意識し、踏まえたうえで環境を整えていくこと、また、それを保護者に伝えていくスキルをつけることが課題と思う。	園内研修を含めた、研修の参加。一人ひとりの保育の質を高めていくことを意識することで解決に向かうと思う。また、研修に参加できる体制づくりとして、保育士不足の解消も並行して行うことが必要と思う。
125	就労時間も含め、保育時間が長いことにより、親子で過ごす時間や触れ合う時間が少ない。	親子で過ごす時間が短くても、乳幼児期に大切にしなければならないこと（スキンシップ、目をかけ手をかけて愛情をもって接する事）を理解し、子育てできるように手助けが必要。
126	教育を受ける幼児よりも興味・関心を引き出す幼児期の教育の意味の理解が出来ていない結果や成績重視の教育を求めている保護者自身かと思います。	結果、就学後の成績が良いのは、乳幼児期に主体的に興味・関心を持って生き生きと活動してきた子ども達だと追跡調査等などの結果を持って知らせなければわからないかもしれない。
127	少子化、核家族化、共働世帯の増加といった社会の変化により、孤立し子育てに悩みを抱える保護者や、大人の都合（仕事）を優先する傾向も見られ、本来、保育所の中だけではなく、家庭でも充分な関わりが必要であるにも拘らず、それが為されているとは思えない。	子どもが健やかに成長するためには、その子に対して充分な愛情が注がれなければならないと思う。子ども達が生活習慣や感受性、知識向上、その他のことを身に付ける上でも、子ども自身の安定が必要であり、園、保護者が連携し、それぞれの役割をしっかり果たして行く取組みが必要がある。
128	自活力意識の低下	生命の育みと課程を知らせる。そのためには、人との関わり方、命(生命、物質等、周りのすべて)のはぐくみ方、見てわかるようにする取り組み。自己肯定感をそだてる取り組み。
129	人間関係を作っていく力や自主的に行動する力などの非認知的な力を育てていくこと	多様な人間関係の中でいろいろな経験をし、それを言葉で伝え合っていくこと
130	・運動能力の低下、とっさの時に手が出ず、ケガに繋がる。 ・規範意識が薄れている。（子どもも保護者も）子どもの気持ちに任せている感がある。	・日々の保育の中に、計画的に運動遊びを取り入れ、体を動かす機会を作り、体を動かす楽しさを知らせていく。 ・様々な体験の中で決まりの大切さをきちんと知らせていく。

No.	①　幼児教育について、現在の一番の課題は何だと思いますか。	② ①で挙げていただいた課題の解決に向けて、どんな取組が必要だと思いますか。
131	社会的な風潮として早期教育が持てはやされ本来子どもにとって大切な五感を使った水や土などに触れる機会も少なくなり十分に遊びこむ機会や場所が少なくなっている。又社会全体で何が大切なのか子ども達を守るべき大人たちが我が子さえよければとの風潮や貧富の格差も大きくスマホやネット等を頼りすぎて十分に愛情を肌で感じられないまま早期教育が先行しているのではないかと思います。	社会全体で子ど達が安全で安心して自由に遊べる環境を構築し地域の中で子育てが楽しめる世の中になる事を願いたいです。スマホやネットの世界に依存してあまり人を頼らない傾向にある世界を少しでも変え競争社会ではなく人と人が尊べる社会の構築が必要かと思われます。
132	人的環境にしても、物的環境にしても、子どもが五感を使って様々なことを感じられる環境や、経験できる場面を設定する機会が少なくなってきていること。難しくなってきていること。	幼児期に大事にしたいこと、育てたいことなどを保育者と保護者の中で確認、伝え合う場を持ちながら、どうしたらよりよい子育てが出来るのか、子どもにとってどうすることがよいのか、具体的に考え実践していきたい。職員の自己研鑽。
133	・子どもの育ちをどのように捉えて、どこを大切にして育てていくかをもっと議論し広めていくこと。 ・時間的ゆとりと、経済的ゆとりの為保護者や職員の働き方の改善。	職員の学習・研修と幼児教育の予算の充実
134	「心の教育」 他人に対する思いやりの気持ちを育てること。 自分だけではなく、周りの人たちも幸福感が感じられるような人と人の触れ合いを学べるような場の設定	・日頃から異年齢での交流をしたり、他児との関わりを多く持てるようにする ・関わる保育者の心の豊かさも必要となるので、より一層の研鑽が必要と考える
135	『幼児教育＝平仮名の習得・英語教育』等、早期学校教育が幼児教育と一般的に考えられている事。	子どもが主体的に遊ぶ中で、発見であったり、驚きであったり、体験を通して学んでいく事が教育のベース（幼児教育）である事を保護者に伝えていくと共に、園の取り組みであったり、環境設定であったり、子どもの姿や活動が保護者にも実感してもらえるように工夫する事が必要であると思う。
136	・親子の関わりが希薄になっている　・子ども自身が親に愛され見守られている実感が持てない ・子どもが生きにくい、ということは親は育てにくいということ ・日々の保育の中で「命を預かり」「育ちをたくされている」ことへの保育が希薄	・親にも保育者にも時間的余裕が必要 ・現場にヒトから人を育て人間に育てているという保育所保育の役割が良く理解されていない
137	・幼児をとりまく環境の変化（基本的生活習慣の確立・生活リズム・親子関係・パソコン・ゲーム等のＩＴ関連商品の普及など）	・「早起き・早寝・あさごはん」など、一日を気持ちよく過ごし、活動に集中するための生活リズムの確立。 ・パソコン等が使用できるのは素晴らしいことなのだが、対人関係を構築していくうえでそれだけに頼らずに自分の力（頭）で考え・動く・解決できるようになるために主体的に取り組めるような活動。
138	幼児教育を実践する団体及び法人が、保護者が求める幼児早期教育や躾等を推し進め、専門家が唱える「幼児期の育ちの大切さ（幼児教育及び保育の５領域）」を実践していないこと、そして、保護者がその大切さを十分に理解していない又は理解していても家庭生活、日常生活において実践できない社会であることと思います。近々の大きな課題は、多くの在仙保育士養成校が十分な就職指導を行っていないことであると思います。	園として全ての子どもたちの健やかな育ちを守るため５領域の習得すべく、保育を行うことであると思います。国、行政レベルは指導監督の強化、乳幼児教育・保育の無償化、園児数の増減による運営悪化を回避するための安定的な財政支援、企業に対する育児休業の期間延長の義務化と支援制度、外国人労働者の就業、労働の機械化などを並行して進めることが必要であると思います。在仙養成校へは、施設実習の際に、養成校でしていない就職指導、助言を行っています。

No.	①　幼児教育について、現在の一番の課題は何だと思いますか。	② ①で挙げていただいた課題の解決に向けて、どんな取組が必要だと思いますか。
139	子どもを取り巻く環境（人的、物的環境）について、子どもが育つ環境として十分ではない。親、支援者等の子どもの理解や子どもの支援に対しての意欲が低下しており、また、親、支援者の経験が十分でないため、子どもにとって必要であることを十分に伝えられる機会が減っている。大人が子どもの成長・発達に対して興味・関心を持ち、継続して支援する姿勢が必要であるが、大人のそれぞれが持つ能力によってその機会が失われていることが課題である。	成長・発達を促す親が自分のことで精一杯になってしまっている事や親自身への肯定感に配慮して支援する必要がある。子どもに対しての支援も重要であるが、まずは、日常子ども達と関わっている親への支援が必要である。支援者も同じであり、支援することに対する目的や意義を明確にし、出来るだけ、子どもにとって関わっている大人の能力によって、成長・発達の妨げにならないようある程度の統一をする必要がある。気づいてからの対応ではなく、前もっての対応が出来るようにしていく必要性がある。
140	世間で教育というものを英才教育や早期教育と誤解している人が多いと感じます。子どもにとっての教育は、遊びや生活の中から生まれてくるものであると認識されていくことだと思います。	今後指針の改定に伴って世間一般にも広く伝えていくことがあると良いと感じます。また身近なところでは、保育園運営をしていく中で、懇談会を通して保護者に発信したり、保育を行う中で子ども達の成長とは何かを日頃から伝えていったりする等の取り組みが必要と感じています。
141	安心して遊ぶ環境。知っている人以外は信じてはいけない人間関係。地域に根差してといってもどこまで信頼できるかという親の不安。社会に子どもを守る気持ちの有る良い大人が増え、子どもが心から信頼関係を作れるようになること。子どもは遊びや環境を通して学ぶということを理解して、子どもが学ぶ場は、勉強以外にも日常の家庭にある事に大人が気付き、関わり、経験させることの大切さと、親子の心の繋がりの大切さ。	積極的に、地域の方と親が関わり合う。一緒に子どもも参加する。顔を知り、言葉を掛けあう。親が自分のことだけでなく、生活の中に子どもを加えて、日常の生活を一緒に経験する。難しいことではなく家の中にも子どもが関心を持つことは沢山あるので、大人はそこに気付いて、一緒に楽しんでいく。話す。たわいのないことも話す。共有する。
142	幼児教育に携わる保育士の専門性，知識の向上	職場内外の研修や自己研鑽をとおして高めていく学ぶ機会の充実のために保育士の処遇改善に努める
143	幼児を取り巻く様々な環境の変化、家庭、地域社会の教育力の低下が大きな課題となっていると思います。また、子どもの発達や学びの連続性を確保し小学校との連携を図っていくこと。	幼児期は、人間形成の基盤を培うという役割を果たすため幼児教育の充実をはかり、発達や学びの連続性を確保して小学校へ引き継ぐことが大切だと思います。幼児期にふさわしい生活をし幼児期に様々な経験をそれを積み重ねること。また、家庭、地域社会との連携を一層図り子ども一人一人の発達を促すためにより良い環境を作っていくこと。
144	子どもが育つ基盤となる家庭の子育て環境のあり方。社会の中で子どもが育つ環境が子どもにとって望ましくない方向になっているのではないか？保護者も生活に忙しく、子どもに向き合っていない。その為子どもが基本的な生活習慣を身につけられなかなかったり、情緒の安定や意欲を得られない子も増えているのではないか？	もっと、社会全体での働き方を変えていくことへの活動。とにかく子どもの保育、教育に対して国がお金を掛けなければいけないと思う。もっと言えば、社会保障や教育に関わる分野をもっと厚くしないと、豊かな社会は作れないと思う（かなり大雑把だと思うが、その場しのぎの政策では子どもの育ちは守れないと思う）
145	「幼児教育」という言葉は誰でも知っているが幼児期にどのような教育をすることが望ましいか、幼児期にはどのような経験をたくさんしたほうがいいか、ということについて、共通の理解が得られていないことが一番の問題だと思う。その為、指針を作るのであれば、「幼児教育とは何か」ということを細かく、具体的にわかりやすく伝える必要があると思う。	幼児教育の権威（汐見先生とか）、現場の園長、児童文学者等の専門家を交えて、「幼児教育とは何か」、ということを整理し、幼児期に経験させておきたいこと、やらせないほうがいいこと、やっても無駄なこと等を明文化し幼児教育の現場で実践すること。また、保護者にも伝えること。
146	乳幼児期にとって母と子の間の愛着関係が一番大切と言われながら、親子で触れあい向き合うことがおろそかになり、幼児向けの様々な情報の影響で、文字や数を教える早期教育に重きを置き、できる、できないの評価で子どもをみる傾向があるように思われるが、こうしたことが現在の幼児教育の課題ではないかと思います。	乳幼児期は様々なことに興味関心を持てるよう、自然の中で身体を使って親も子も思いっきり遊びこむことが必要だと思います。遊びを知らない保育士も多くなってきている中、幼い頃の遊びを語り合うことやその遊びを通して子ども達は知識や知恵を獲得していくことがあることをお互いに学びあえる“場”を作る取り組みが必要と思います。

No.	①　幼児教育について、現在の一番の課題は何だと思いますか。	② ①で挙げていただいた課題の解決に向けて、どんな取組が必要だと思いますか。
147	・基本的な生活習慣の見直し ・心の教育、感謝 ・ゲーム・携帯・メディア中毒(親も含めて)	親に対しての生活、子育て、サポート、支援の受け皿が必要。
148	幼児教育は、知識や記憶力を必要とする学童期の教育とは在り方も方法も違い、感じる力、行動する力を養うことが大切だと考えます。したがって、小学校の予備校的教育方法から脱することが一番の課題であると考えます。	知育教材、学習教材、視聴覚教材などに頼らず、生きた体験を通して豊かに感じ、「何だろう？」と物事に興味や関心を持ち、「やってみよう。」と自ら行動できる環境を整えることが必要だと思います。
149	自然に親しむ、身体を動かす、人と関わって遊ぶなどの実体験を積む機会が減ってきている。心を育てるような内容よりも、文字や数字、英語等の小学校以降の教育に直接つながるような内容のものを重視し、取り入れたがる傾向が今の家庭にあること。	家庭では経験することが難しい内容を保育に取り入れていく。乳幼児期に大切なものを保護者に伝えていく、保育者も共に学んでいく場を作ること。
150	家庭でできること、すべきことを保育園でやって欲しいというような要望する保護者が多くなってきたように感じる。	保育園生活の中で培うことや保育活動や取り組みが幼児教育とどのように繋がっているのかの説明や明確化がもっと必要と感じる。
151	・子どもの興味関心を広げ、旺盛な探求心を育てていく為の生活や遊びの環境 ・経験から達成感や自己肯定感を高め次なる意欲を育てる人的環境	・五感を刺激し、好奇心や探求心を育てられる生活の取組み、遊びの工夫 ・職員の人材育成 ・家庭との連携
152	社会における子育て環境の不確立。福祉事業に対しての妥当な援助のなさ。保護者の労働環境の悪化。	社会全体が労働時間の縮小。賃金のベースアップ。
153	一番の課題は、仙台市として（国として）幼児教育にお金をかけていないことだと思う。働く大人の支援と大人が使いやすい便利な保育を提供するように求めてくることが、一番の課題だと思う。子どもが置き去りになっている。どんどん施設を増やし、資質を疑う人も保育士や幼稚園教諭として働いている現実のつけが後からくる。心ある保育士と心ある園のモチベーションが下がっていく。	子育てが、未来を創ることだと理解できるような施策と支援や質の高い保育を提供する設置者の見極めをしてほしい。幼児教育の重要性を認識し、教育に手をかけることが未来を創ると訴える強いリーダーシップを発揮してほしい。質の高い保育士の確保と研修のバックアップなどが必要だと思う。公立保育所の保育士と同様にしてほしい。
154	学校の先取りを教育と考えている方が多いと思う。　子どもの豊かな発想や心の育ちを大事にすべき、もっとのびやかに過ごせる時間が必要なのではないかと思う。	せめて、メディア（ゲーム・テレビ）を少なくし、親子で会話が楽しめるくらい、家庭で過ごす時間を多くするべきではないでしょうか？やはり、社会生活の基盤は家庭であると思います。
155	教育要領の「援助」と「指導」を復活すべき。	幼稚園教育要領の抜本的見直しＧＨＱ戦後教育からの脱却を早急に実施すべき。
156	知識教育ではなく、心を育てることが必要と感じる	①豊かな遊びの体験 ②こども主体の生活 ③人とのかかわりの中で共感する力を育む ④一人一人の思いを受け止めてもらう事で自己肯定感を育む
157	少子化が進み、早期教育や核家族化による子育ての孤立が問題となっていると思う。	幼児教育が、早期教育ではなく幼児期にしかできない沢山の豊かな体験から学んでいくことが大切であることを、教育の現場から発信し続けること。「保育を必要とする子ども」をすべての子どもであると捉え、すべての子どもが質の高い保育教育を受けられるようにすること。
158	遊びこむ経験。学びに向かう力。	子供が自発的に活動を行えるよう、自由に遊べる時間、場所や素材など物的。、人的環境の整備。
159	スマートフォンやパソコンゲーム機などの普及により、小さいうちから、それらを使って遊ぶ子が増えている。また、保護者世代も、それが当たり前になっていて、子どもが欲しがったり、見たがったりすると与えてしまう。	意識している人が少ないので難しいかもしれませんが、保護者や幼児教育に携わる職員が、そのことが子どもにどのように影響するかなど、学ぶ場を作る。

No.	①　幼児教育について、現在の一番の課題は何だと思いますか。	② ①で挙げていただいた課題の解決に向けて、どんな取組が必要だと思いますか。
160	保育所を利用する共働き世帯において、家庭で子どもと向き合う時間が減っているのではないかと感じること。上手に時間を使い、少ないながらも子どもと関わる時間を大切にする家庭がある一方で、本来家庭で教わるであろうことも保育所に任せきりになり、それが普通だと思っている家庭もあるように思う。	保護者の忙しさや、向き合い方がわからないという事情を保育者が理解した上で、家庭で取り組んでほしいことは明確に伝え、方法を具体的に示すこと。保育施設に預けているうちはやってもらえることも、成長すれば本人や家庭が取り組まなくてはならないことが出てくることの見通しを持てるようにすること。保護者が心にゆとりを持って仕事と子育てを両立できるような社会の仕組みづくり。
161	基本的生活習慣の確立。身辺処理の自立。人と関わる術の取得。	時間を守る。整理整頓が出来る。忘れ物をしない。排泄の自立。気温に応じた衣服の調整が出来る。挨拶が出来る。人の話が聞ける。友達が大好きで自分のことも大好きになる。・・・というような場面の提供。
162	・自己肯定観が持てるような教育を行うこと ・良好な人間関係が築ける力を培うこと ・社会性を育てること	・集団を活用した取り組みの中でも、ひとり一人の成長、発達、個性に応じた関わりを行うこと ・自分は誰かに必要とされている、役に立っているということが実感できる機会を多く持つこと ・挨拶や正しい言葉遣いができること、その場に応じた行動ができるようになること
163	幼児教育に関わる職員の知識やスキルの不足。	自主参加できる外部研修の機会を増やしていく。
164	乳幼児期に大人とのしっかりとした愛着関係を育て安定した情緒を土台に自己肯定感を育み、仲間との関わりを通じて様々なことへの関心を育て意欲を引き出せる環境を整えることが必要。	日々こどもに関わる大人（保育者）が子ども自身で自分の思いを出せるような大人との関わりを作っていく姿勢を持ちながら保育を行う。実際に関わり方について職員同士学び合うこと研修や指導が必要に思う。
165	子どもと保護者との愛着関係や、子どもの自己肯定感が大切である。これがしっかり培えれば順調に成長すると言われているので、0歳児から保育所等や公的機関できちんと培えるよう啓蒙していく必要を感じている。	子育て家庭の短時間労働の体制(心の余裕）及び経済的補助。子育て家庭のつどいの広場の普及
166	言葉の数が増えた、文字や数がわかる等、塾や習い事への保護者の関心が高まり、子どもが知りたい、やってみたいと挑戦し達成感を持って次に進む、仲間と共に頑張ったり我慢したりする経験をする機会が少なくなっていると思います。	幼児期につけたい力（学ぶ土台となる意欲・心情・態度）について社会に認知してもらう。まずは、子育て中の保護者に発信・理解してもらう。そのために、より質の高い保育ができるよう職員の学び、実践を深める（それには時間が多く必要ですが、日々に追われている現実があります。）
167	子育てにかかわる保護者や保育士が、子どもの気持ちに寄り添い丁寧に関われるだけの気持ちや時間の余裕が必要かと思う。	働く人の労働時間の短縮、特に子育て中の人は父親も含め、子どもとの接する時間をもうけられ、子どもの早寝早起きなどの生活時間を保障できるような働き方ができると良い。保育士の配置基準の引き上げで、一人ひとりに丁寧に関われる受け持ち人数で、余裕を持って保育ができる体制が必要。
168	保育所に限っての話になりますが、保育士不足は深刻な課題になると思います。	保育士の処遇改善やを国が掲げて何か策をとる必要があると思います。
169	大人の教育	子育てのノウハウを知る、気軽に相談できる場所があるとよい。子どもを産み自宅に戻ってから頼る人がいない、聞く人がいない、いたとしても聞けない等親としての教育を定期的にするべき。健診の時にもっと親育てをする等保育園に入園するまでの間が一番大切。
170	子ども自身が変わっているのではなく、その周りを取り巻く環境がかわったと思います。情報が多すぎて保護者が選択出来なことが多かったり、子どもとのコミュニケーションがとれないなど多々あります。	保育園で出来る援助はしたいですが、それにも限りがあります。社会全体で考えていく必要があると思います。

No.	①　幼児教育について、現在の一番の課題は何だと思いますか。	② ①で挙げていただいた課題の解決に向けて、どんな取組が必要だと思いますか。
171	幼稚園教育要領と保育所保育指針が一体化したとしても、それを捉えて指導する文科省と厚労省がそれぞれ独立していては、捉え方がバラバラである。	行政改革を止めて、主管官庁を一体化し上で、同じ目線での取り組みが必要である。結果的にどのようなシステムになるかは予想がつきませんが？
172	生活の中で実体験する機会が減り、人間力の土台と言われる基礎が育ちづらい。又、家庭での子育て力の低下や情報が多い中で、頑張り過ぎている。いい母親像と個人の欲の両立で苦しんでいる。	職員の質の向上のため、研修参加や職場環境を整え、経済的に一定基準を満たす報酬が必要。その中で幼児教育（人間力の育成）にしっかり取り組む必要がある。親に限定せず保育のプロとして人間教育に取組む責務があると思う。
173	（1）コミュニケーション力の低下 少子化（兄弟がいない）、核家族化(特定の人としか関わらない）という社会の変化により、必要なモデルを見せたり感じたりする機会が激減している事が原因（親世代も同じことが言える） （2）身体機能の低下 少子化や環境の変化により、安全、事故等に敏感にならざるを得ない状況であり、子どもの自発的な動きが制限され過ぎたり、身体を使って遊ぶ機会・場所が激減したこと。	（1）については、教育・保育現場（特に未就学児を対象とする施設）においては、異年齢構成の生活と活動を積極的に取り入れ、大人の指示命令ではなく、年上の子どもをモデルとして発達する（しようとする）力を引き出していく必要がある。また、クラス担任においても複数でチームを組んであたることで、多様な大人と関われる環境や多様な大人の視点・観点で教育・保育が行われることが必要。 （2）については外で身体を使って遊ぶ経験や時間をしっかり確保することや散歩など自然の中に出ていく機会を多くする。そして、小学校のような平坦な園庭ではなく、未就学児童の施設は園庭の中に地域と同じ（坂道、でこぼこ道、砂利道等）環境を用意し、そこで遊ぶことを通して身体機能の向上を図り、自分の身体を守ることを覚えていく必要がある。過度な危険回避のための遊具の撤去やケガをしない環境づくりに偏っていくことは将来の子どもの発達の妨げになる。
174	保育士不足、保育士の質の低下。	ゆとりを持ち、心を育てる教育が出来るように研修や、労働条件の改善が必要だと思う。
175	幼稚園と保育園との大きな違いが、集団としての教育が違っている事。クラスの人数の違い、集団での遊びの変化・発展の違い、数の影響から生まれるメンタル面の育ちの違い、等々	今の親の選択を考えると親の都合でしか選んでいない。地域・お隣さん・小学校学区・・・社会的要因を考えて選択しているようには、考えにくい。ここが解決させるような政策があればいいですね。今の親世代では、選択する根拠を指示したとしても、指示には、従わないと思うところが、一番の問題課題である。
176	子どもが興味関心を持ったことをとことん探求する、試行錯誤する、粘り強く続ける、挑戦することの価値を現場も保護者も社会も認識すること。子ども同士（いろいろな年齢）の直接的な関わりの経験が希薄なことで、己を知り相手を知る、自己抑制や自己発揮しつつ折り合いをつけていくという心の育ちが、実態のない言葉だけの理解で育っていることが多いのも課題だと思います。	就学前は、子どもの興味関心を引くような素材（自然界を含む）をふんだんに用意し、満足いくまでかかわれるような時間、空間を保障する物的環境つくり。保育者が応答的な対話を通して子どもたちの発想や考えを広め、深める人的環境つくり。幼児教育と初等教育の異同を各現場が共通認識しそのうえで子どもの発達の連続性をどのように支えていくかを検討する。
177	生きる力 (自ら考え、工夫し、乗り越えていく力)	成功体験だけではなく、むしろ失敗したり出来ない体験が必要だと思います。周りが答えや道筋を作るのではなく、子ども自身が考え、”やってみよう”とする強さが育つような保育環境作りが必要だと思います。
178	情緒が不安定で甘え保育士に対する甘えや独占欲が非常に強い子が多い。自己主張が強く、相手の気持ちを考えて行動できない子が目立ってきている。また、言葉のやり取りで極端に強い口調で訴えるなどの姿が多いと感じる。	心の安定を図る取り組み。（家庭・保育園）
179	幼児教育自体の認識が、どうしても学業の成績的な所に行く保護者がいる。幼児教育がどういう物なのか保護者から知らせていくことが課題と感じる。	お便りや懇談会など保護者に直接話し伝える場面を作る。社会的にアピールできる場がもっとあれば良い。

No.	①　幼児教育について、現在の一番の課題は何だと思いますか。	② ①で挙げていただいた課題の解決に向けて、どんな取組が必要だと思いますか。
180	子育てを苦痛と感じている保護者が多く、子どもがいることで自分の時間が持てず一時預かり等出来ないと断られると、怒り出してしまう方が多くなっている。子育てを大変ではなく、楽しいものに出来ないこと。	
181	現代は家庭の背景が様々で、生活リズムや食生活の乱れ（朝食の欠食や肥満等）、実体験の不足や大人との愛着関係が築けずにいる児が増えている。年長クラスでも自己肯定感や人への信頼感を持てずにいるため、いろいろな活動への意欲に欠ける。	保育の基本だが、各年齢において信頼できる大人との安心感の基盤作りが必要。それをもとに発達、年齢にに合った遊びや経験を積む事で充実感を味わい様々な活動への意欲に繋げていく。
182	自分で考えたり、工夫したり表現する力をつけていくための方法。人とかかわる力、遊びの環境とかかわる力をどういうふうに育てていけばいいのか。自主性を育んでいくための環境構成をどう組み立てていけばいいのかが難しい。	・計画的な職員研修をして子どもの成長発達のためによりよいかかわりができる職員集団を育成する。 ・家庭での愛着関係をしっかりと築けるように親への働きかけをしていく（自主性、自発性、知的好奇心の基礎になる） ・遊びを手段にしない。子どもが集中して思いっきり遊び込めるような配慮。
183	様々な物や事柄から、疑問を見つけ出す力。遊びの中で仲間と一緒に話し合いながら考える力。	様々な物や事に触れる体験ができるような、カリキュラム設定。子どもたちの日々の疑問をすくい上げ、場を作りだす保育者の育成。
184	子どもたち自身一人ひとりが生きていく力を育むこと。その中でも自然の中で意欲的に体験し学ぶこと、大人との愛着形成をしっかり行い、信頼関係の中で豊かな心を持つことが大切だと考える。	保育園では、保護者との『とも育て』を念頭におき、みんなで連携をとり共通理解のもとで子ども達に日々最善に利益を保障していく。
185	社会変化による家庭環境の複雑化、養育者低下、貧困など	・上記の状況を把握した上での、それぞれに合った幼児保育の設定や働きかけ ・根本的な方策等の見直し
186	自然の中で遊ぶ機会が減っており，自然に触れる事による発見や感動の経験が少なくなっている。日常の保育の中で，どのように取り入れていけるのか試行錯誤を重ねている。	園内でのバケツ稲作・畑作りなどに加え，近隣農家での米の出荷作業の見学をさせてもらっている。
187	子ども１人１人への愛情のかけ方	保育所等の最低基準の緩和とフリー保育士の増員
188	自分を大切にすると同時にまわりの人を大切に思う心が育っていない。	自分が大切にされているという経験を沢山することが必要。保護者に余裕がないのであれば、まわりの大人から「大好き」というメッセージを発信する必要がある。
189	子どもが自己肯定感を持ち、生活をおくること。	子どもを育てる保護者にとっても、子育てしにくい社会背景があり、安心して保護者が子育てできるよう支援していく必要がある。保護者が子どもを愛し、保育士も子どもを大切に思う気持ちを子ども達に感じてもらうことで、子どもの自己肯定感を育んでいきたい。
190	幼児期は人間形成の基礎を培い、生きる力を育成する時期であり子ども一人ひとりの可能性を引き出すことが必要である。そのためには環境を設定し思考力、表現力、判断力など子どもの内面にある伸びる力を引き出す指導が問われる。環境については、人的環境の資質向上をはかることも課題と思われる。	保育所だけでなく、家庭と地域とが一体となる事で発達や学びの連続性が強化されると思われる。今後、さらに地域との連携が必要になってくると考えられ、特に就学に向けて小学校との連携を円滑にする必要性を強く感じる。
191	・子どもが自主的、意欲的に関われる環境を整える事 ・あそびや生活を通して子ども一人ひとりの発達にあった体験が得られるよう配慮する事 ・保育園における教育について保護者に伝える事	保育士一人ひとりが、子どもの発達について正しい知識を持ち、どんな環境が必要なのか、どんなあそびがふさわしいのかについて、園内研修等で取り上げ、保育士のスキルアップを図る。写真や動画、文字を使って、日々の保育の中にどんな教育的内容があるのかを伝える努力をする事

No.	①　幼児教育について、現在の一番の課題は何だと思いますか。	② ①で挙げていただいた課題の解決に向けて、どんな取組が必要だと思いますか。
192	保育者が子どもと同じように何に対しても興味関心を持って、保育者と園児の立場ではなく、一緒に共感して感動して発見してもらうこと。	体を使う遊びも先生が一番楽しんでいるくらい、遊びを引っ張ってもらいたい。草花や虫など子どもたちが好きなものは、物知りになれるよう頑張って習得することで、「先生、すごい！」と思ってもらうことが大切でとても必要だと思う。
193	人との関わり方（コミュニケーション） 信頼関係の築き	子どもの気持ちに寄り添う保育が出来るように、また、保護者が望む支援が出来るように努めていかなければと思う。具体的には表せないが、上記の課題に添ったもので、職員の意識付になる内容や知識として身に付くものがいいと思う。
194	自己肯定感が持てない子どもが増えている。	０才児の家庭保育の推進。 保護者支援の徹底。
195	苦手な物には挑戦しない、すぐに諦めてしまうこと。自立心や協同性が欠けている。	挑戦して達成した喜びと失敗した悔しさを経験し、乗り越える力や考える力を培う体験を保育やカリキュラムに取り入れる。
196	・保護者と子どもが一緒に過ごし育ちあう経験や体験、時間の確保。 ・子育てに保護者も会社も地域も保育園・幼稚園も余裕がないこと。	社会体制の見直し。仕事と子育てのバランス。子育て世代への社会全体の支援。保育時間の見直し。保護者の仕事の多様性に合わせて保育時間がどんどん長時間になってきている。便利はいいが子どもへの負担が大きすぎる。社会全体として子どもを預ける最大時間を決めてそれに合わせた仕事ができる社会が必要。（二重三重保育の負担）
197	親との関係	保護者支援
198	保護者との連携において、教育のあり方を共通理解をしていく。	個別対応と保育参観や懇談会の、保護者との関わりを多く持つ。
199	・保育時間がとても長くなっている ・保育園が家庭の役割を全て担っていくこと	・子供の成長を共に喜べる機会を多く設ける ・社会が働く時間を短縮出来るように、子育てにもっと時間を向けられるようにする
200	日本国として、どのような大人として育ってほしいのか確立し示すことが大切なのではないかと思う。子どもはずっと変わらない存在であるが、世の中の動きが大きく変わり、その中で大人(親)が翻弄され、大人が狭い価値観・経験の中で子育てを行い、それが小さい子ども達に大きく影響しているように思えてならない。家庭による教育の価値観が違う点も影響している。	テーマを大きく書いてしまったので、解決策は非常に難しい。今、子どもが生まれる前からの支援も仙台市で始まっている。支援の必要な方には最大に行い、これからの幼児教育の場には環境の面で差がないようにといつも願っている。環境とは、子どもに必要な広さ、自然、遊具などである。例えば、保育所が建設されるすぐ隣には大きな公園が必ずあるなど。どんな境遇の子どもでも必ず平等にと願う。
201	自己肯定感をもてるような保育・教育をすることが課題。	教諭・保育士の研修や学びの機会を増やすこと、また、子どもたちを十分理解し、10年後、20年後の子どもたちの姿を想像し、教育・保育のあり方を考えていく必要がある。
202	保育士の確保です。	仙台市では、保育士の処遇改善をどのように考えているのでしょうか？反対にお聞きしたいです。待機児童改善のために、次々と保育園はできるが保育士確保がどの園も大変です。
203	保護者の子育て支援のメニューが増え選択枝が広がっているが、その分子どもが振り回され（？）様々な環境に置かれて、自分の安心できる居場所をみつけたり、安心できる人との愛着関係を築くことが以前より難しくなっている。そのため情緒の安定が保ちにくくなっているように思う。	様々な子育て支援のメニューを提供していくだけではなく、どのメニューをどう組み合わせるか、子どもの育ちを守る視点でコーディネートしていく役割が必要と考える。
204	・椅子に座ったときに姿勢を保つことができない子どもが多い。体幹が弱いと感じる。体づくりをしていかなければと考えている。 ・早寝早起き朝ご飯のスローガンをもとに働きかけているが、朝ご飯の内容が乏しい。健全な食生活、特に充実した朝ご飯が必要と思う。	・身体を使った運動遊び 年齢発達に合わせて系統立てた運動遊びができればよいと思う。 ・子ども自身が食事に興味が持てるような食育活動

No.	①　幼児教育について、現在の一番の課題は何だと思いますか。	② ①で挙げていただいた課題の解決に向けて、どんな取組が必要だと思いますか。
205	・保護者の生活リズムに子どもが合わせられている。 ・戸外で遊ぶ時間が少ない。 ・自分で考え、創造し行動する力が弱い。 ・核家族で世代間交流がない為、人との関わり方が分からない。 ・自分中心の為、相手の立場に立って考えることが出来ない。 ・小学校との連携が薄い為、入学後の不安がある。	・子どもが生活しやすい環境を、家庭と協力し大人が作っていく。 ・子どもの成長段階に合わせた、生活リズムを大人が子どもの立場から考えて子育て出来るような、指針があると良い。それが、子どもの将来に影響していくことを、専門の分野の方々から、定期的に年齢毎に検診をしてアドバイス出来るシステムを作っていく。 ・小学校との連携を義務化し、異年齢交流のマニュアルを整備する。
206	親が子育てに不安を抱えながら生活をしている現状が多いことが課題だと思われる。特に母親自身が子どもとの関わり方に悩み、その不安定な毎日のまま生活をしていることで子どもの育ちに大きな影響があると思う。	誰にも相談せずに一人で悩んでいる母親が多いため、もっと気軽に相談できるような環境の整備が必要であると思われる。保育園として在籍している園児の親へ子育て支援を充実していく他に、地域の子育て真っ最中の親子にも同様の支援の充実を図り、子育てが楽しいと思えるような毎日が必要だと思う。母親自身がそう思える毎日を過ごすことが「幼児教育の基礎」に繋がると思う。
207	家庭の中での子どもたちの育ちではないでしょうか。保育園等に入れてしまうと、そこに依存し、保護者は自分の時間を大事にし、家庭での子どもへ向き合う時間、（話を聞いたり、一緒に何かを行なったり）が減っているように思われる。甘えさせたり、物を与えたり、保護者はどう育てたらよいのか分からなくなっているように思う。	子どもたちの今の姿を伝え、今、何をしてあげることが大事かを、繰り返し伝えていく。こちら側から、話かけることを多く持ち、保護者の思いを知るようにする。
208	コミュニケーション能力の向上	一人ひとりに声をかけ、子どもの話をよく聞き、思いに共感しながら世界観を広げていく。
209	豊かな感性の土台つくり	五感に響くような体験を多く設ける
210	子どもが遊びを十分楽しめる環境が少ない。（室内・戸外）　また、子どもと十分に触れ合い遊べる保育士も年々少なくなっているように感じる。	ゆとりある保育環境（加配保育士等）をつくる取組みが必要
211	保護者や保育者である大人が子どもを必要以上に管理し、何でもやってあげすぎる傾向にあるのではないかと思う。一つ一つ指示されないと動けない子どもや、してもらうのを待っている子どもが増えているのが気になる。また、失敗を恐れて初めから挑もうとしない子どもが多い。子どもの意欲や興味の低下、更には我慢する力が低下しているのが問題だと思うのでそれらを改善することが課題だと思う。	遊びを通して、好奇心に満ちた幼児の自発的な活動を援助し、望ましい方向に向けて発達するように環境を整える。大人主導の管理型保育ではなく、子ども一人一人の個性をしっかり捉えたうえで、子どもの自発性を尊重し、子どもが伸びようとする力を引き出していく保育の取組が必要だと思う。
212	子ども一人一人に対して、きちんとした関わりができるのか？	知識を持つこと。　保育体制を整えていくこと
213	幼児教育というと、つい文字や数などを早い時期に教える、といった小学校の学習の先取りのように考える方がいますが、そうではなく、学習の基礎となる興味や関心を育てることを大切にしてほしいと思います。	生活の中で、例えば「数量」なら、大きい小さい、長い短い、等の言葉を意識して使ったり、形や種類で物を分ける、何個ずつ分ける、などの作業を活動の中に遊びとして組み込むなど、しっかりと系統立てた取組が必要だと思います。
214	生活リズムを整えること	現在も行っているが、早寝早起き朝ご飯の習慣を伝えること
215	テレビやパソコンやタブレット、スマートフォンなど、それ自体が発光しているものを使って、子どもが動画鑑賞やゲームを長時間することで、光による強力な刺激を繰り返し受け興奮し寝る時間が短くなったり、発光していない普通のおもちゃに興味が薄く遊べない子供がいる。アナログな経験や体験活動の重要性が増しているように感じる。	できるだけたくさんの体験や経験ができる機会を設けたり、幼児向けの特別なプログラムを提供したり企画してくれる場所や人材の紹介を行えるように、組織的なものを構築していく。保育士や幼稚園教諭だけでなく、園児を指導していくのに必要な特別な人材を育てていくような取り組みも必要では？

No.	①　幼児教育について、現在の一番の課題は何だと思いますか。	② ①で挙げていただいた課題の解決に向けて、どんな取組が必要だと思いますか。
216	・心と身体のバランス ・探究心や学びの意欲を育む	・自然の中での実体験 ・たくさんの人との関わり ・子供同士で群れて身体を動かしながら夢中になって遊ぶこと ・主体的な遊びと生活
217	・保育内容、教育的内容の実践の不十分さ ・保育士の資質 ・幼保小の連携の検討	・教育内容の充実と幼児期に育みたい資質などの明確化 ・小学校との接続についての在り方の議論とアプローチカリキュラムを実践の中でどう取り組んでいくか明確化 ・保育士の一人一人の質の向上に向けての研修の充実
218	・コミュニケーション不足 ・生活習慣の見直し	家庭に向けて、生活習慣の大切さを伝えていく場を設ける。
219	子ども達が育つ環境。	子どもが考え行動できる場の設定と、保育のスキルアップが必要だと考える。
220	色々な情報の氾濫、パソコン、ゲーム、スマホ等乳幼児の時から触れる機会がいっぱいある。自然の中で身体をたくさん動かしてあそぶことや友だちと触れ合い、ぶつかり合いの機会が減っている。	・乳幼児時期から、様々な情報機器に触れさせないようにする ・生活の工夫、家庭への啓もうの仕方を具体的に知らせる。 ・自然に触れ合う機会を社会全体で作る。
221	保護者と子どもとのかかわり方・考え方 子育てに関して興味や関心が少ない保護者が増えている。	施設と家庭との情報交換を上手く行い連携を強めていく。市役所、区役所等で、入園希望の受付の際に、家庭での関わり方などもう少し細かく聞いてもらい施設のほうと情報を共有したい。
222	保護者が我が子とどう付き合っていいのか、自信がなく保育園や幼稚園に丸投げしがちなところが課題だと思う。幼児教育について家庭でも話し合うことが大事だと思う。	地域子育て支援や保育園や幼稚園での保護者同士の交流を利用し、子育てについて一緒に考えていく体制づくりが大切だと思う。
223	保護者教育が一番必要だと感じます。	保護者同士が交流できる行事などを増やしていく必要があると思います。
224	幼稚園、保育園、こども園の幼児教育の面を統一していくこと。考え方が違う、保育環境が違うなどはあるが、ある程度は統一することが望ましいのではないか。	各指針もそうだが、いろいろな研修や交流など幼保別でなく、一緒に同じ様に受けられるとよいのではないか。
225	子ども、保護者、保育者及び職員との信頼・愛着関係の構築	親子で関わりが持てる行事の取り組み、保護者も巻き込んだ活動
226	保護者も、そして保育士もあまりに忙しすぎて余裕がなく、子どもとの関わり方、関わりの中味が、希薄なものになっている。また、あまりに保育園等に頼りすぎて、家庭で過ごす時間、親子の関わりの時間が少ない家庭が増え、親子関係も希薄になっている。	ゆとりを持って働くことの出来る社会のしくみを子育て世代、保育現場に限らず国全体で作り上げていかなければならない。また、現在、子育て支援という名目で何でもかんでも保育現場任せにしすぎている。仕事が休みの日は家庭で見る、365日給食ではなく保護者の手作り弁当の日を設ける等、保護者が親としての役割をきちんと果たす機会を当り前のこととして設けていくことも必要では。
227	家庭（親）の在り方。 基本的な生活の保障ができていないため子どもが苦労しているように見える。 （大人中心の生活時間や子育て、生活能力の不足など）	子どもの存在意義をもう一度国全体で考え、社会的な子育て支援新制度をより充実させていく。 （学校教育の中織り込んだり、労働時間の短縮など等。）
228	・様々な環境の変化と、教育力の低下 ・運動能力の低下 ・保護者支援、子育て応援	・その地域に合った対応や変化 ・発達や学びの連続性をよく理解し、課程の改善 ・戸外遊びを増やし、計画的に身体を動かしていく ・親との関わり、幼児にふさわしい生活を理解し、納得できるような支援

No.	① 幼児教育について、現在の一番の課題は何だと思いますか。	② ①で挙げていただいた課題の解決に向けて、どんな取組が必要だと思いますか。
229	幼児教育は三つの柱(幼児の主体的あそびと、体験を基礎とする習慣化、他者との関わり)を課題としているが、アンケートにも答えたように、子ども自身の自信低下と家庭教育における生活上の習慣化の低下、他者との関わりや物事への取り組む際に生じるハードルを取り除きたい気持ちが親・子共に強くなってきた。	①の課題について、その答えになっていると思われる子どもの様子を説明したり、見える化(写真・ビデオ)にした形で発信し続けることが必要であると考える。幼児の主体的あそびについては、遊びの伝承と、幼児が興味・関心を沸くであろうことを、現場でもっと熟慮する必要性がある。体験を基礎とする習慣化については、子どもは繰り返すことで習慣化されるので、途絶えることなく進めていく。特に“食”に関することは時間がかかるので、発信し続けていく。最後の、人との関わりについては、子どもはもちろんだが、親の考えが狭くなってきている。普段から他者の言葉を受け入れにくい傾向を感じるので、啓蒙が必要と思われる。
230	スマートフォンの普及により保護者は情報が多すぎて子育てに悩み、子どももスマートフォンを見ていること	メディアの影響の怖さを保護者や子どもに繰り返し伝えることと実体験の楽しさを提供する
231	生活体験の不足を補い、基本的な生活習慣や技能を身に付けていくことと、忍耐力や自己制御、自尊心などの社会情動スキルを身に付けさせていくことが大きな課題ではないだろうか。	子どもが安心して自分の居場所感や社会的承認が得られ、夢中になって遊びに没頭できる環境を与えていくことが必要である。その為に保育者は、教育実践や育てていくプロセス・カリキュラムの効果的活用を行い、子ども達を取り巻く環境、家庭との連携、地域や小学校との連携、などが途切れることなく繋がり、深めていくことが必要であり、それが幼児教育の質を高めていく要因になっていくのではないだろうか。
232	ゲームやDVDの普及のみならず、最近はスマホやタブレット等、身近にすぐに使えるIT機器があり、子どもたちはそれを使って遊んでいる子どもも中にはいます。そういった子どもで、ゲーム等に依存し始めると、日中の園での遊びが、ゲームをするまでの待ち時間のようになってしまい、「遊び込む」ことが出来なくなってしまいます。こういったIT機器の普及は大変困難な問題だと感じています。	園では10歳まではDS等のゲームは一切禁止と言って、保護者に自分自身の体を使った遊びの大切さをことあるごとに話ししています。しかし、そういった子どもでも小学生にあがったとたんに友だちがゲームで遊ぶのに、自分は買ってもらえないという問題が出てきます。また、スマホや携帯電話を持つ子どもの低年齢化も問題です。園では高校生までは自分の携帯は持たせないということをお願いしていますが、こちらも難しいのが現状です。市で禁止して欲しいです。
233	善悪の区別がつかない子どもが増えていること、大人中心の生活になり子ども達の生活リズムが乱れている。	キリスト教主義に基づいた教育を中心に、日々感謝の気持ちを持つこと。戸外あそびを中心とした遊びの中で、不思議さ感動する心そして人を思いやる心を育む、という園の基本方針をもとに保育を展開していく。保護者に対して、生活リズムの大切さを発信し、戸外でいっぱい遊ぶこと情緒の安定した生活が送れるように情報を共有していくようにする。
234	保育の質の維持と向上 離職率が高い	働き続けられる環境づくり
235	当園は「幼保連携型認定こども園」です。国の定める「認定こども園法」に従い「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の目的に沿うよう保育の計画・実践・反省を行う活動に努めること。	1. 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の教職員への理解。 2. 園内研修の充実。 3. 職員個々のフォローアップ体制の強化。 4. 園の保育・教育目標からの月毎の目標、年齢別目標の設定の園内の話し合いの積み重ね。 5. 園外研修の参加する。
236	・保育施設が不足している。 ・子どもを取り巻く環境の変化が著しい。 ・家庭環境の複雑化	こまめに家庭との連携を取っていく事が必要。
237	実体験の不足に伴い、自主的・自発的に行動する機会が少ないこと、また、子どもの主体的な活動を保証し的確に援助する大人(子どもの教育・保育に関するすべての大人)の不足	「時間」「空間」「仲間」の三間の充実。「教育」とは教える事だと考え、子ども自身の内面を引き出すことがおろそかになる大人の意識改革
238	親との共同作業でいい子供達を育てていきたいと思っていますが、まれに幼い親が自分勝手な行動を子供に押し付け、集団生活において支障をきたしている点と幼児教育をするにあたっての教師の数が足りない。	賃金の値上げや条件の改善など、十分な数で子供達を安全に育てられるような環境を国の方でも考えていただけると嬉しいです。

No.	①　幼児教育について、現在の一番の課題は何だと思いますか。	②　①で挙げていただいた課題の解決に向けて、どんな取組が必要だと思いますか。
239	幼稚園における子育て支援の最大のねらいは、幼児教育の充実と考えられます。時代の流れと共に、預かり保育をはじめとする支援の幅が広がり、そのことが幼児教育の充実を阻害している一因になっているのではないかと思われます。	少子化が進み、園児の増員は望めない中で、教員の人員を増やし環境を整備することが重要だと考えますが、当面は無理なことと思われます。
240	・人の一生涯における幼児教育の重要性を社会全体が理解すること。 ・教育的な働きかけ、その学習は大人との愛着、信頼という土台に基づいた、子どもの遊びであるという認識を実施者、保護者、社会全体が理解すること。	・幼児教育を理解している人や施設機関が利用する保護者や地域に向け普及していくこと。 ・教育の実施者が正しい理解の基実践していくこと。 ・行政や幼児教育を受けるシステムに働きかけ、教育を受ける道筋や教育を受ける環境が整い、効果的な実践ができる状況を整えること。

No.	③ ②に記入していただいた取組のほかに、今後特に力を入れて取り組むべきと考えることがあれば、記入願います。
1	子ども一人ひとりが自分で考え、自信をもって生活できる力と人と関わり協調し、作り上げていく力を育む幼児教育。
2	幼児教育の充実を念頭に置きつつ、「子どもの育ち」を深く考える場や機会が、親や幼児教育に携わる者に必要かと思う。方法のみ論じるのではなく、土台作りが親にとっては必要かと思う。
3	保護者が子育てすることが、社会に対して有益であるという考えが希薄になっている。こどもを育てる環境はどうあることが望ましいことなのか、もう一度社会全体で考える機会をもつことが必要ではないか。
4	少子化が進むこのままでは、高齢化がますます進み、都市機能が破たんしてしまいます。子育てに対する行政の援助を進めてほしい。特に就学前の乳幼児を持つ親に対する厚い補助をお願いします。
5	世論として保育園の待機問題、保育士の待遇改善が多く言われていますが、教育は文科省である幼稚園から始まっています。教育者へも財源を注がなければ、将来へと持続する社会に繋がらないのではないでしょうか。養護は社会を維持し、教育は社会の継続する力と、取り組むべき考え方が異なると考えます。将来を見据えると、今取り組むべきこと、整備すべきこと、何を大切にしなければいけないかということを声を挙げ、社会にその重要さを伝えることが必要だと考えます。
6	「発達障害」と思われる子どもたちや、配慮が必要とされる子どもたちに対する幼稚園から小学校への接続教育をどうするか。
7	「子育て支援」が保護者の負担を軽減しているいう点では、効果が発揮されていますが、そのおかげで、子どもと関わる密度が低くなってしまっているように感じられます。子どもから目が離してしまう状況になり、大人中心の生活になってしまっている世の中になっているように感じます。子どもの基本的な生活の教育が置き去りにされないような支援を考えていくべきだと思います。
8	年齢の低い子に対しては、自分でやろうとする気持ち（自立心）が育つ環境整備
9	１．幼児期にふさわしい体験を通して、心豊かにそだっていくための環境構成について教職員で研鑽していくこと。 ２．保護者に対し建学の精神と幼稚園の教育について理解と協力を求めていくこと。
10	幼保小連携。現在のような形だけの連絡会のような連携ではなく、互いの教員がそれぞれの施設を見学し合ったり、学び合い情報を共有し合えるような場の設定があるといいと思う。小学校は教育委員会主導、保育所は仙台市主導なので、私立幼稚園は仙台市私立幼稚園連合会と連絡しあって、そうした場の設定などを検討していただけたら思う。
11	受け皿を増やすために保育所増設に取り組むのは当然であるが、幼児教育の内容の充実・維持を図るために幼稚園に対する補助・支援を推進すべきであり、幼稚園教諭の待遇改善も進めるべきである。幼稚園は子どもの教育を通して親を教育することができる場でもある。幼稚園で育てられた子どもと保護者が小学校に入ることは、小学校教育の充実にもつながる。
12	五感をたくさん使う遊びを積極的に保育活動の中に取り入れる。
13	国や地域が,子どもをどう育てたいのかという具体的なビジョンを持って保育を考えていって欲しい。園庭の狭さや、町中保育、長時間保育などが子どもにとって良いことなのか。預かれば良いということでは無いと思う。
14	現代社会が、仕事至上主義。仕事での評価だけが取組事項。家庭・家族・こども社会が、取り除かれて、居心地の悪さだけが露出していること。知らず知らずその点から遠のくだけ。政治施策も必死に労働者サポートするだけ。社会全体へのビジョン・構想が、生まれていない現状だ。
15	少子化が進むこのままでは、高齢化がますます進み、都市機能が破たんしてしまいます。子育てに対する行政の援助を進めてほしい。特に就学前の乳幼児を持つ親に対する厚い補助をお願いします。
16	特別支援を要す（いわゆる気になる子）について行政として把握し、補助や、入園前→在園→卒園前→小学校就学の流れを作ってほしい。教育委員会でも実践しているが、気になる子のサポートは全くされていない。中には福祉を必要としている子もいることから、行政の義務だと思う。
17	幼稚園の預かり保育への補助の拡充を求める。
18	乳幼児からの「知的」刺激を徹底して強化。
19	心を大切に育てられる社会、安心して戸外で遊べる環境を目指すには、犯罪を犯す人間形成の根幹、幼児期の心の教育や社会性・協調性を育む取組を国全体の大人たちが真剣に向き合おうとする姿勢と有識者が大人の指導者となっていくことが大切だと考える。
20	保護者との意思疎通を良くするために話し合う回数を多く設ける
21	乳幼児からの「知的」刺激を徹底して強化。

No.	③ ②に記入していただいた取組のほかに、今後特に力を入れて取り組むべきと考えることがあれば、記入願います。
22	『現場で育てる立場』の人手不足もある。
23	子どもに自分がいかに大切な存在であるかを教えること。
24	基本的生活習慣（早寝、早起き、朝ご飯,挨拶）、保護者教育
25	家庭に対する啓蒙活動。幼児期は家庭の理解や協力が不可欠なので、一層の園側の努力が必要と感じます。
26	運動遊び
27	遊びを通して学ばせる
28	保育士だけでなく幼稚園教諭の待遇改善
29	・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の内容と具体的な教育活動をどのように結び付けていくか。 ・基本的生活習慣（学習習慣）の育成。
30	インクルーシブ教育の現場経験者に個々の園の悩みなどをサポートしてもらえるような体制をつくっていって欲しい。このままでは、受け入れる園、初めから一切お断りの園との差が大きく、軽度発達障害を持っている子の保護者が、どこに子どもを入園させたらよいのか、非常に狭き門となっている。
31	何より、幼稚園教育の質の向上です。
32	我々施設側は、当面新しい規則や要領等に基づいて実践することになるが、子供たちにとって何が一番良いことなのかを常に念願に置き活動する。そしてその内容を行政側に報告し、次のステップに移れるように努めたい。
33	上記とは別内容となりますが、近年、発達障害、もしくはその傾向の子供が増えているように思います。専門の先生方が多くのアドバイスを重ねても、一番は保護者の方の向き合い方によって子供の成長に大きな影響が見られるように感じますので、子供直接の援助方法と並行して、保護者への情報公開（同じ立場の方々の情報共有・悩み相談の場など）が身近なところにあり、保護者自身の悩みを受け止め、子育て観を前向きにさせてあげられる支援が充実すると良いのではないかと思いました。
34	発達障害の子ども支援拡充
35	特別支援を要す（いわゆる気になる子）について行政として把握し、補助や、入園前→在園→卒園前→小学校就学の流れを作ってほしい。教育委員会でも実践しているが、気になる子のサポートは全くされていない。中には福祉を必要としている子もいることから、行政の義務だと思う。
36	子の預け場所が増え、待機児童が解消し保護者の要望にはそぐえたとしても子ども達を預かる教育機関の質の向上や親向け子育てレクチャー等が出来なければ良質な幼児教育はできない。そのためには人員確保も含めた教育機関の体制の整備が必要。
37	女性の職場優先が話題になっている。子育てしている時の母親としての心構えがおろそかになっているので、その点を真剣に考えてほしい。幼児期をどう過ごすかによってその人の人生が左右されると思います。つまり社会性の高い子供に育つためにどうあるべきかを大切にしてほしい。
38	保育料（預かり保育も含む）の負担軽減。預かり保育（時間、担当教師の確保等）
39	家庭と一致して協力して取り組むこと、及びその啓発
40	幼稚園，保育所等，乳児保育に携わる者としては，非認知能力を高めるために乳幼児期の教育について，計画的，体系的に保育を磨くことが求められる。行事等のねらいの達成のために，日々の活動にもねらいを定めて，多方面からアプローチすること。子どもたちとねらいの確認，振り返りを行い，子どもたちが主体的，能動的に活動に取り組めるようにすることに力を入れていきたい。
41	・家庭で経験することが難しくなっている戸外遊びや、小学生やお年寄り等地域交流の充実 ・幼児教育の充実と小学校への接続
42	・子育てしやすい職場環境づくり ・保育士の処遇改善、人材育成 ・教育や社会制度の大胆な改革
43	子どもの虐待や貧困家庭に対しての支援／子育て支援の充実／ 地域との連携／幼稚園・小学校との連携―学びの接続
44	子育て環境の社会的整備，充実（法整備・職場環境・支援事業等）
45	少子化対策。子育てに優しい社会環境の整備と保育所の拡充。それを支える保育士の処遇改善と保育士の人材育成。

No.	③ ②に記入していただいた取組のほかに、今後特に力を入れて取り組むべきと考えることがあれば、記入願います。
46	人との関わりが苦手な保護者が増えている現状があるので、子育て支援の在り方を考えていくことが必要である。子育ての基本を知る機会を、実体験を交えながら啓蒙していく。
47	保護者への子育て支援
48	・子育て支援の体制強化。 ・保育士・幼稚園教諭の処遇改善。
49	幼児教育に関わる幼稚園や保育所等の諸機関が，経済学の視点からでなく，子どもの発達と健全な育成の視点から歩み寄っていくことが必要。制度の改定を待つのではなく，現場レベルで交流する体制を確立して，既成事実を作っていくことが必要。
50	チームとして，地域や各機関との連携。
51	・保育士不足の解消。 ・保育士のみならず、栄養士や技師も含めた保育所職員の社会的地位向上と待遇改善。
52	体験型保育
53	行事や日々のおたよりなどで、保育所にも教育があることを知ってもらえるよう、自分たちがアピールしていかなくてはいけないと感じている。幼稚園・認定こども園の説明では、「教育」という文字がはいっているが、保育所は「就労などにより家庭で保育できない保護者に代わって保育する施設」とあり、残念に思う。「子守り」というイメージを払拭できるような努力をしていきたい。
54	価値観の多様化（保育所保育ならではの取り組みである，個性を認め・尊重する関わりを保育士が日々の様々な場面で子ども達に発信していく）
55	保育士の待遇も含めた保育環境の改善と幼児教育の大切さの意識向上と保育の質の向上
56	保育所で行う教育を考えるとき，課題となるのは集中力の個人差の考慮。活動時間の設定の工夫になってくる。長時間保育の中で「生活の場」「活動の場」を分けたり，生活リズムを整えることで学ぶ意欲につなげることが必要と考える。
57	保護者との連携。保護者自身が幼児期の教育を学ぶ機会をもち、子どもとよりよく関われるようになる心理教育の重要性。
58	・保護者や子どもに余裕をもって対応できるよう人的保障があるとよい。 ・職員間での話し合いの時間の確保
59	保育所における子育て支援事業の充実と地域の子育て環境の充実（育児相談･遊び場や集いの広場等）子育てにやさしい社会的環境整備（育児に対する職場環境ー育休・時短・休暇が取れやすい職場等）
60	保育士自身が幼児教育について学びを深め，実践しながら保護者へ発信していけるように，そして保育の質をより向上させていけるように，研修の機会や時間の保障が必要であると考えます。職員の欠員状態が続いている現状の中，保育士が疲弊しないように，保育士数を確保し，研修を充実させ，学びながら保育実践していける環境づくりの取り組みが必要であると考えます。。
61	地域との連携（幼稚園、小学校、子育てを支援してる方々、等）
62	現在の教育や社会制度の見直しを考えてほしい。
63	保育所内だけで解決できない問題があった場合いつでもすぐに相談が出来るようなシステム。受けたいときにすぐに受けられるようなスーパーバイズ等。
64	・地域を巻き込んだ子育てや子育て支援の充実を図る。社会全体としても保育所の役割としても、増々求められる部分だと思う。 ・保育士の確保や保育の質の向上を図るため、制度の見直しも必要だが、メディア等で保育士という職業の大変な部分だけがクローズアップされている傾向があると感じる。保育の面白さや充実感などを、社会に感じてもらうような取組も大切なのではと思う。
65	家庭，地域社会，幼児教育等施設のそれぞれの教育機能の見直しや連携の確認。
66	子どもが安心して何かに夢中になれる環境を作り、探究心を育てていけるようにする為にも、子どもの気持ちを理解して、見守ってくれる保護者の存在を支援していくこと
67	小学校との連携
68	小学校に入学したら、学びの場であることを自覚して、必要なことはそれまで、家庭においても身につけるべきことは、人任せではなく大事である。何事も、急にはできないはずである。
69	人の話よく聞き、子どもの主体的な活動や子ども相互の関わりを大切にすること。（自分で考えて行動できるようにしていくこと）

No.	③ ②に記入していただいた取組のほかに、今後特に力を入れて取り組むべきと考えることがあれば、記入願います。
70	子どもの実態をよく捉えて、保育所の保育内容を見直す等、必要ではないかと考えます。
71	保育園としては、地道な働きですが、当園の保育理念にあるように「一人一人に寄り添う」保育を継続することと考えます。そのためには、働く職員のメンタルの部分を支えるのが管理職の役目であると思います。子どもたちも保護者も職員もそれぞれ拠り所とするものは違いますが、一人一人の必要に応えられる保育園でありたいと願っています。
72	乳幼児教育の無償化と最低基準の引き上げ
73	幼児教育を支える保育者の質の向上を目指し、研修の機会を増やすことと、それを保障するための人材と財源の確保が必要。
74	・心の教育 ・外で体を動かし遊ぶ
75	保育士不足の解消には処遇改善の課題もあり、同時に働き方の問題もある。保育士は8時間労働の中、8時間子どもと向き合っている。限られた時間の中で行事等の打ち合わせ、会議、活動の準備、面談、相談事業などをこなすのは難しく、時間外労働を余儀なくされている。この状況が改善されず、「きつい」というイメージが払拭されなければ、保育士不足は解消しないと思っています。
76	ゲームやテレビに夢中にならず、集団遊びの楽しさや外遊びで身体を動かすことの解放感を味わえるように遊びの充実を図る。
77	保護者のペース主体の生活から、子ども中心の生活への切り替えがスムーズに行くような社会全体への取り組みや子育てにやさしい街づくりの一環として、東根市にあるような子どもが大人と遊べる施設や昔あった冒険広場とか、親子が一緒になって遊べて体験出来て共感し合えるような、また行きたいと思える施設が仙台市内に欲しいです。
78	当園でも懇談会や部外講師による子育て講演会など、保護者の子育て支援に係る取組みを行っているが、行政においても同様の機会を設けるなど、保護者支援の機会を多く設けて行く必要があると思う。
79	小学校との連携・接続　小学校との温度差を感じる。受け身では　なく積極的に働きかけをしていく必要性を感じている。学校見学や児童との交流だけでなく、小学校の教員と一緒に学ぶ場や、意見や情報を交換する場がほしい。
80	対象の子どもだけに焦点を合わせるのではなく、保護者（父母、祖父母などの大人、きょうだいなど含む）の幸福感も得られるような生活力の推進が行えればより良いと考える。また、将来を見据えた心の育ちを育んでいく保育を行う努力が必要である。
81	今後幼保連携型認定こども園に移行していく方向で考えている。職員も保育士・幼稚園教諭の両免許取得して子ども達に関わっている事をもっとアピールしていくと共に、職員の研修の時間・環境も更に整えていきたいと考えている。
82	・保育士の処遇の大幅な改善が必要ー国、地方行政　・離職防止対策を取るべきである
83	・学校との連携　・保育士の質の向上　・保護者支援
84	園独自では「５領域」並びに「新保育指針」に添った保育の充実を図るための職員研修と保護者の方々に「乳幼児期の育ちの大切さ」を様々な場面で伝えるための懇談会の充実を進める計画です。また、国、行政への対策強化を要望すること労働人口の減少に対応した保育施設の拡充施策を理解の上にも施設の主役が将来を担う「子どもたち」であることを職員で共有し「子どもたちの健全な育ちを守る」運営を行っていくこととしています。
85	教育についての支援者の認識が低いと思われる。支援者として今の子ども達を見て支援することも大切であるが、10年後20年後を見据えて関わっていくことの必要性を何らかの形で伝えていく必要がある。それは、養成校であるのか、又は現場に出でからなのか、もっと親や支援者の感覚や感性を養う必要性がある。
86	生活スタイルの違いや、家族構成の違いからくる子どもへのしわ寄せが見られている。親の心の余裕、時間の余裕、金銭の余裕なども影響していると思われる。雇用の見直しや改善など、間接的に関わってくることへの改革が、しいては子どもにかえっていく。家庭環境に関わりなく、保育園では皆平等。心伸び伸びとありのままを表現して心身ともに健康に育つように、環境を整えて接していくことを大切にしていく。良い人的環境の中で保育、教育をしていくこと。
87	家庭における基本的生活習慣の確立や様々な体験をさせる事の重要性を伝えていくこと。
88	保育の現場で言えば、保育士の養成に対して、力を入れるべき（特に質の面で）。将来的には保育士の取得には国家試験を行うことが望ましいと思う。そうすることで、処遇の改善にも繋がるし、保育の質の向上にも繋がる。保育の質の向上は子どもの育ちに繋がっていく。

No.	③ ②に記入していただいた取組のほかに、今後特に力を入れて取り組むべきと考えることがあれば、記入願います。
89	幼児期に自然の中で感じた心地よさ、不思議さはその子の将来に大きな影響を与えると思います。また、幼児期は絵本の読み聞かせなどにより、想像を膨らまし、空想の中で遊ぶことが豊かにできる時期でもあります。このような貴重な時間を大切にしてあげることが大人がすべきことです。単に知識を詰め込むことは決して幼児教育ではないということを伝えることに力を入れて取り組むべきです。
90	母と子の関係が人間形成の基盤と言われているにも関わらず、親子でしっかり向き合うことが難しい現状であることから、保護者も含め、人とのふれあいの大切さを伝える機会を何らかの形で取り組む必要があるのでは、と考えています。
91	会話力（理解し答える姿勢）（目を見て会話ができない子多数）
92	先生から与えられた課題をこなす、或いは、教えられたことを行うという受動的な“設定保育”よりも、自主性ややる気を引き出し能動的に活動できる“自由保育”の必要性が、幅広く、また、正しく理解されるようになると良いと思います。
93	・他園の活動等の見学や交流　　・幼児教育についての研修　　・小学校との連携
94	保育士の労働環境の充実。保育士の社会的地位の確立。
95	離職者を出さないためにも保育士の処遇は、あげていく。「保育士は、責任の重さや労働の大変さ、持ち帰りの仕事の多さや保護者との対応、長時間の勤務時間などもあり、なり手がいない。」と言われている。だからこそ、今働いている保育士の仕事が報われ『辞めないで続けたい』と思える状況を作り出すことが必要だ。法人だけでは限界がある。その部分をしっかりと支援してほしい。
96	こだわりの強い子が増えていると思う。家庭の教育力が落ちていると思うので、健診の時にでも、子どもへの対応の仕方などを題材にした講習会的な取り組みはどうか？　育てにくい子（気になる子）が増えてきている、大人が我儘になっている分、虐待に繋がるのではないかと危機感を感じている。
97	乳幼児からの「知的」刺激を徹底して強化。
98	保育の質の向上。保育の内容と共に働く環境の質の向上に力を入れていきたい。
99	運動あそび
100	お陰さまで広い園庭と自然環境に恵まれた立地で足腰が鍛えられ存分に五感への刺激が豊富。危険回避に向けての身のこなしや体力向上、加えて心を丈夫にしていくことも日々の保育の中で取り組んで行きたい。
101	子ども同士、子どもと保護者、職員と保護者など他者との適切な関わり方、コミュニケーションに関するトラブルが多い。相手を思いやる心、コーチングなどの考え方や技術の習得を推奨していくと良い。
102	今回のアンケート記載対象児については、「まあそう思わない」と回答する項目が多かったのですが、各年齢・クラスによっては「そう思う」ということも多々あり、一施設の中でも子どもの育ちに感じることはいろいろです。どの子どもたちも就学までにつけたい力が持てるような、幼児期の教育を行っていきたいと思います。
103	金銭面について：子どもの医療費18歳まで無料にする（村田町などは無料化している）、子ども手当18歳までもう少し金額を上げるなど金銭面の補助をする
104	目の前にいる子ども達の利益を第一に考えて保育にあたっていきたい。
105	子どもの非認知能力を向上させる教育・保育。 　誰か（大人等の）指示や命令によって動く子どもではなく、自分で考え自発的に動くことがきる大人になるための教育。一斉保育から放任ではない自由保育を学び、研究し取り組む必要を感じる。　　現実、まだまだ現場では一斉に何かをさせるという方法がとられていると感じる。保育指針が10年ごとに見直されている意味をまずしっかり理解する必要がある。
106	すべての子どもたちのために、幼児教育に対する関心を深め、その為に労している人たちの付加価値を上げることによって、これからの日本がよりよくなるものと考えます。
107	こどもと関わることの重要性を訴えていかないと、子どもたちが大人になりきれない『こども族』が増えていくだけだと想う。日本として・宮城県として・仙台市として・・・共通の『子育て指針』があると親にとって目標になるのでは。
108	仙台市民の育成という観点から、ある程度具体的な提言をしていただくと仙台市の意志が理解しやすく、現場として共通認識しやすいのではないかと思います。他県、他国のシステムや内容などを参考に（方法は各現場の持ち味があるので縛らずに）現場の実践に生かせる文言を盛り込んだ指針を作成していただきたいと思います。

No.	③ ②に記入していただいた取組のほかに、今後特に力を入れて取り組むべきと考えることがあれば、記入願います。
109	保護者へ向けて、子供との関わりの大切さについて分かりやすく、また負担のないようにうまく伝えていく事。
110	子ども自身が考える、人の話を聞く、自分の思いを伝える、友だちと協力して遊べるなど子ども自身が能動的に考えたり、選択して主体的に動ける力をつけていくことが幼児教育の中では重要と考えます。日々の保育の中で、保育士がう意識して取りいれていき、それを保護者へ伝えることが大事と考えます。
111	家庭への啓蒙活動を強める
112	家庭と連携し合いながら健康な体と心を育てていく
113	自然（水、土、木など）の中で、全身で遊ぶ経験を多く取り入れる。食育に取り組み生きる力を育てる。社会性の育ちでは、子ども達一人ひとりに丁寧に関わり、信頼関係のもとで自己肯定感の育ちを大事にしていく。
114	できるだけ近隣で畑を借り，手入れから収穫までの体験をさせる農業体験をすすめたい。散歩コースを見極め，危険のない木や草花のある公園や森，川などを見付けていきたい。
115	幼児教育　保育料の無償化
116	笑顔とあいさつを絶やすことなく、丁寧な対応や言葉がけが一人一人できる保育をしていくこと。
117	保護者同士との関わり、子育て支援
118	男女共に安心して働き、子育てができる環境作り。保育士の社会的地位の向上と処遇改善。
119	保育園希望者がとても多いので、枠を広げてほしい。又、保育士養成にも力を入れてほしい。
120	人に関わる仕事は、近い将来もロボットが代行できる仕事ではなく存続すると言われている。であるからこそ、保育士に全て委ねるのではなく分けた考え方で子育てができたらよい。新制度の動きもそこにあるとは思うが。保育士も疲弊している。良い環境の中で、ゆったりと子どもを見つめたいと思う。私達は、子どもにとって大切であることは何が何でも伝えていく姿勢を貫いていく。
121	保護者教育 親になる前または健診などで、しつけと虐待を保健師さんなどからしっかり伝えてほしい。
122	一時預かりについて、小規模保育所や幼稚園の土曜日や臨時休園のためによる利用希望が増えている。新制度になり休日保育も利用料金をいただかないようになっているということだが、同じように認定を受けているとすれば整合させるべきだと考える。土曜も保育が必要な家庭については、土曜も保育できる小規模保育所や幼稚園を利用できるように調整すべきだと考える。また、一時保育を何カ所かも掛け持ちしなければならない現状を改善すべき。
123	話を聞く力、自分で考えて行動する力、友達との関係の中での自己コントロールする力を育んでいきたいと考えている。
124	・物があふれて、何でも手に入る時代の子どもたちに、我慢することを教えてゆきたい。 ・大人の生活、考えに合わせられ、自分で考え自分で行動し解決する力や様々な想像をする中で、自分独自に考え、作り出す力が養えるような指針があると良い。そうすることで自己肯定感を持てるようになっていくのではないか。
125	幼児教育＝早期教育と思う親が多くなっている。そのため英語・読み書き・パソコン・数字などを早期に導入することを求める親が多いが、親子の愛着形成の重要性を伝える必要があると考える。
126	小1プロブレムでの幼・保・小間の子どもに対しての認識や目指すべきものなどについて、話し合いの場や研修の機会を増やしていくとよいと思います。
127	友だちや色々な人とのかかわりを通して「伝え合う力」を育てる取組。 正しい姿勢を維持して腰かけていられるよう、運動遊びを沢山取り入れて体幹を鍛える取組。
128	安全でケガをしないように、ということが優先されて、危険なものがどんどん排除されている感じがします。もちろん安全であることはとても大切ですが、危険を察知したり、危険を回避したり、最低限の被害で防いだりする能力も子どものうちにつけさせたいと思います。
129	小学校区単位で保護者に向けた、幼児教育についての啓蒙活動に取り組むべきと考えます。
130	小学校と保育園の「先生」は、存在意義が全く違うにもかかわらず、同じ呼び名で呼ぶことになる。子どもにとっては「同じ」先生。特に日常の生活上とても依存関係の強い保育園における「先生」から、小学校の担任の「先生」の違いはとても大きい。だからといって子どもに説明してもしっかりと理解できるにはまだ幼いため、適切なそれぞれの呼び名が必要なのではないか。
131	・異年齢による子供同士の関わり、世代間の関わり ・自己決定、自己発揮し自己肯定感につながる活動
132	自ら考える力、感じる力、気付く力などどう育てていくか

No.	③ ②に記入していただいた取組のほかに、今後特に力を入れて取り組むべきと考えることがあれば、記入願います。
133	園でも保護者に向けてアドバイスをしたり相談にのる等していく。
134	子ども自身で体験・経験できる環境作り
135	育児・子育てが人間の営みの中で重要なことであることをいろいろな場所で発信していく必要があると思う。
136	話しを聞こうとする気持ちを育てる
137	・子ども自身が自ら考え選択し行動すること。 ・主体性、自主性。
138	①にも記したが、家庭教育力の低下、中でも“食”と“排泄”といった集団で生活するうえで、欠かせないところが、幅をもって考えても完全でない状況で、入園をする子どもがかなり増えた。(親が意識的にかかわってこなかったのでは？と想像される。)このことは、幼稚園に入園後、担当する教員数にも大きく影響してくることから、入園前の子の育ちについて、詳しく分析する必要性を感じる。
139	メディアがなくとも楽しめる活動を積極的に親子で参加してもらう。
140	子育て支援センターの役割がかなり重要だと思っています。やかまし村に支援センターを設けますが、今のような受動的な支援ではなく、もう少し保護者が能動的に関われる支援の在り方を模索したいと思っています。また、出産時、もしくは妊娠時からのIT関連機器と子育ての関係についての講演や絵本の重要性を説く講演会の企画等も必要と思います。
141	園舎周辺の自然環境、大学の音楽科を中心としたコンサートなどの音楽的な環境、0歳児からの保育を考えた上で、子ども達に与えられるものを最大限利用していきたい。
142	「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の目的に沿うために、園では、どういう子に育ってほしいのか。それを定めるのは園の教育・保育目標で、当園では「立腰教育」と「体育」という2つの保育の柱を立て活動をしている。
143	保育者が働きやすい環境を整えるべきと考えます。
144	幼児期に長時間保育施設に預けられる子どもの事を思い、保育者とこそもだけの関係ではなく、広く地域等と連携をはかり、様々な人間関係や社会に触れる必要性を感じる。地域社会に根差した幼児教育を目指すことが重要であろう。
145	これからどんどん子供の数が減っていく中で、その園独自のカラーを出してやっていかなければならないと思っております。0歳児から区役所の方での申し込みを各園に直接の申し込みの方向でやっていただけますと、同じ考えのもとに協力関係が違ってくると思うのですが、早くに自由申し込み(それぞれの園での)の方にかぎつけていただけますとありがたいです。
146	保育時間の長い子で、早朝7時15分～19時15分までの12時間利用しています。おそらく小学校に入学してからは、児童館を利用し過ごさなければならない子どもたちの健全育成をどのように対応すべきか。
147	どんな教育であっても人の数と資金は必要です。潤沢であれば質が向上するわけでわけではありませんが、不足している環境では飛躍的な向上は期待できません。また家庭環境に左右されず平等に質の高い教育を提供するためには教育の質に対する行政的投資が必要だと思われます。抜本的な取り組みとして、現場が教育に対して身動きが取れる人と資金を確保できるシステムの構築を望みます。